

WILD ROVER CREW
DOSHIHA
UNIVERSITY
ROWING CLUB
YEARBOOK 2016.11-2017.11



力漕

vol.25

同志社大学
体育会ボート部



02 戦績ハイライト

- 02. 第70回記念大会朝日レガッタ
- 05. 第4回西日本選手権
- 07. 平成29年度関西選手権競漕大会
- 09. 第44回全日本大学選手権大会
- 10. 第95回全日本選手権大会

12 インカレ優勝記念特別寄稿 最終目標は世界一

14 2018年度ボート部練習計画

15 2回生の視点から見た 同志社大学ボート部

16 艇友会インタビュー

佐々木 譲 先輩(昭和46年卒)
小森 進治 先輩(昭和53年卒)

20 卒業生の言葉

26 2018年度現役部員紹介

31 コーチングスタッフ紹介

32 平成29年度 ボート部にご支援いただいた皆様

いつも艇友会の皆さまには、ボート部の活動のみならず、現役生の就職活動支援など、いろいろな側面から温かいご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

現在、ボート部では新4年生から新2年生で漕手、マネジャーを含め80名を超える部員が意欲的に活動しています。現在勧誘中の新入生を加えると100名を超えることが予想されます。

昨年度は、第44回全日本大学選手権大会において、櫻間達也君が男子シングルスカルで見事に優勝を果たしてくれました。また女子では、西田樹乃さんが2017アジアインドアローイング選手権大会オープンペアの部で優勝を成し遂げてくれました。国際大会での優勝はボート部の歴史のなかで初めてのことで、これも、艇友会会長や幹事をはじめ、艇友会の皆さまからの長年にわたるご支援の賜物であると、本当に心より感謝申し上げます。

時折、ボート競技は個人競技なのか団体競技なのかという議論がなされることがあります。辞書によりますと、団体とは「2人以上の者が共同の目的を達成するために結合した集団」と定義されています。しかし、JRの団体割引乗車券適用の団体とは、8名以上となっ

『力漕』vol.25 発刊に寄せて



同志社大学体育会ボート部
部長

志賀 理

ています。このように、何人からが団体なのかという定義は明確になされておらず、ボート競技において、シングルスカルは個人競技だけれども、ダブルは個人なのか団体なのか、エイトは団体だけれども、フォアは個人なのかというボート競技固有の複雑な議論になるのではないかと思います。

しかし、ほとんどの大学のボート部は合宿所で集団生活を送っています。このような集団生活は、部員同士が信頼関係を構築し、種目は異なっても、共通の目標、目的を持ち、先輩、後輩問わず、お互いがライバルとして切磋琢磨して、個人の競技力向上を図りながら、部全体の競技力を高めることに資するものであると思います。この意味で、ボート競技は集団(団体)競技なのではないでしょうか。

ボート部は今、上記の個人の成果から部員全員がボート競技の高みを目指すという、まさに団体競技としての組織的な機能が生まれており、それが今後の結果につながっていくものと期待しております。

艇友会の皆さまには、どうか今後ともなお一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。



生活費を、
保険する。
という考え方

もしものときの…
生活費

ニッセイ就業不能保険(無解約払戻金)

新登場



戦績 2017.5 ↓ 2017.11 ハイライト



対校8+

C: 桑原康彰
S: 阿部正典
7: 糸魚川宗志
6: 櫻間達也
5: 大森健太

4: 藤原駿也
3: 久保剛
2: 村田真哉
B: 原田遥大

第70回記念大会 朝日レガッタ



2017年 5月4日～7日
於：琵琶湖漕艇場

今回のエイトは私が今まで乗った中で最速のクルーだった。クルーのエルゴ平均は6分35秒で、スタートでのスピードコーチのカテゴリーは1分13秒を見ていた。試合前の並べでは東レにも勝利し今回は優勝以外あり得ないと考えていた。

予選、準決と全体トップタイムで決勝に進出した。決勝は西の風4mで非常に波が高かった。スタートデッキが風で流されブレードが岸側のレーンにブレードが入ったままスタートせざるを得なかった。予定通りスタート

トは出たもののリガーに波が当たり失速した。想定内で気にせず艇速を上げたが、上げるたび波に当たって浸水してしまい、最後は5位だった。ようやくチームに優勝をもたらすことができたと思っていたので非常に残念だった。ただ、実力があることがわかったので、あとはシーズンを通して強いチームから勝てるチームに進歩できれば、今まで支えてくれた人たちに恩返しできると思う。(阿部正典)



レース No.180 決勝1組 (13:15 発艇)

レーン	クルー	着順	1000mタイム
①	龍谷大学	6	3'16"21
②	京都大学	3	3'10"47
③	東レ滋賀	1	3'03"88
④	同志社大学 A	5	3'13"15
⑤	中部電力	2	3'07"62
⑥	大阪大学 A	4	3'12"20



M8+B

C: 山口弘人
S: 神宮健輔
7: 中澤正浩
6: 大谷大
5: 藤原嵩

4: 大谷文則
3: 高野敦
2: 古賀寛之
B: 松本直弥

スタートから勝負を仕掛けていくという思いで臨んだ予選では試合の雰囲気から艇速を伸ばしていくことができて最下位になってしまった。その日の午後に行われた敗者復活では、やるしかないという気持ちからクルーの動きが揃い持ち前のリズムから艇速を伸ばすことに

成功し、準決勝に進むことができた。準決勝では、満足のいく漕ぎができたものの、パワー、艇を進める技術など自力の差を見せつけられ勝ち上がることができなかった。今回見つけた課題に真摯に向き合い、これから練習に取り組みでいきたい。

(松本直弥)

No.156 準決2組 (14:37 発艇)

レーン	クルー	着順	1000mタイム
①	神戸大学	4	3'04"73
②	レジェンド to 島根	5	3'05"88
③	大阪大学 A	2	3'00"10
④	東レ滋賀	1	2'56"48
⑤	龍谷大学	3	3'00"43
⑥	同志社大学 B	6	3'06"84



M4+A

C: 藤本亮
S: 大谷鋭周
3: 黒田宗一郎
2: 石田大知
B: 安藤優作

メンバーはストローク、パワ、COXが2回生、エンジンペアが3・4回生という若いメンバー中心のクルーだった。

僕たちの強みとは0.500mで必ず出られる、スタートでこのクルーも絶対においていけることだ。その代わり後半、他のクルーよりダブルスパートで上げることができない先行逃げ切り型のレース展開を何度も並べることで練習していた。

本番では750mまで3位に2艇身以上開けていたが、相手がレートを爆発的にあげて

レース No.146 準決1組 (13:10 発艇)

レーン	クルー	着順	1000mタイム
②	鳥取大学 駿風	5	3'23"49
③	同志社大学 A	3	3'14"42
④	トヨタ紡織	1	3'08"71
⑤	京都大学	2	3'13"90
⑥	滋賀大学 A	4	3'19"49

いるのに対しこちらのレートが上がり切らず、結果的に0.5秒差で負けてしまった。今回のレースは技術云々ではない、執念の差だと感じた。

(石田大知)



M2x A

S: 飯田海舟
B: 星野夏貴

ターゲットタイム3分20秒を目標にしてレースに挑んだ。予選は3分17秒で全体の4位になったが組内のレベルの高さから上がれず敗復に回った。敗復ではトップタイムで準決勝に進むことができた自信を持って臨めた。そして準決勝では2年連続負け続けている企業に水をかけて勝つことができた決勝へ。決勝クルーで最遅のタイムだったため、クルー内では1位か6位のつもりで挑んだ。1位以外

のクルーは750mまで横一線に並んだが、最後のスパートの早さが勝負を分けたと思う。3位とコマ差で勝ち、大きな意味のある準優勝となった。

(星野夏貴)



レース No.171 決勝1組 (9:31 発艇)

レーン	クルー	着順	1000mタイム
①	同志社大学 A	2	3'30"32
②	今治造船	1	3'27"25
③	広島大学 A	4	3'34"01
④	トヨタ紡織 A	棄権	-
⑤	トヨタ紡織 B	3	3'30"73
⑥	立命館大学 A	5	3'39"50

レースNo.166 決勝1組(8:16 発艇)

レーン	クルー	着順 1000mタイム
①	高瀬(同志社大学A)	5 4'39"35
②	西澤(滋賀大学教育学部 凛)	4 4'24"48
③	杉原(今治造船)	1 4'10"37
④	大石(アイリスオーヤマ)	2 4'13"20
⑤	谷川(今治RC)	3 4'21"98
⑥	重松(関西学院大学B)	6 4'41"22



高瀬絵留萌

られるレースだったが、これからのモチベーションと経験としてとても意義あるものだった。相手は同じ日本人であることには変わりはないし来年は勝ると、これからの自分に期待をして今回のレースを経験として活かしていきたい。(中村魁)

レースNo.129 準決4組(10:11 発艇)

レーン	クルー	着順 1000mタイム
①	追手門学院大学 A	4 4'03"69
②	山口合同ガス A	棄権
③	龍谷大学 B	2 3'37"69
④	トヨタ紡織 A	1 3'30"57
⑤	同志社大学 B	3 3'47"66
⑥	大阪市立大学 A	5 4'05"10

予選では余裕を持って1着でゴール。しかし準決勝では基本の甘さが露呈し、ラフコンに対応できず全力を出し切れないまま敗退となった。クルー構築という点で多くのことを学んだクルーだった。(松坂滉)



S: 山本幸之介
B: 松坂滉



だ。しかし、沖からの横風により自分の漕ぎができずに終わった。本当に上手い選手はどんな状況でも自分のパフォーマンスの質が劣らない。残り4カ月もないが、できる限りの全力を尽くして終われるよう毎日の練習に励んでいきたい。(高瀬絵留萌)

レースNo.131 準決6組(10:25 発艇)

レーン	クルー	着順 1000mタイム
①	中国電力	6 4'22"47
②	同志社大学 A	1 3'41"42
③	品川リフラクトリーズ	2 3'45"05
④	大阪大学 A	3 3'52"26
⑤	島根大学	4 4'05"65
⑥	同志社大学 C	5 4'11"37

互いに怪我はなく、距離は漕ぎこむことができたと思う。タイムも順調に伸びていたの予選落ちはないクルーになったと高を括っていたのが敗因だと捉えた。レースを通して足りなかったのは、ラフコンへの対応である。荒れることも容易に予想できたのに対策を練ることができなかった。また、準決勝の逆風のレースではパワー不足も感じられた。総括すると実力不足のレース内容だったと思う。関西選手権まで時間はないが、艇の進め方をもう一度考える機会を設けたい。(横田颯一郎)



S: 岡本晃寿
B: 横田颯一郎

今大会の目標は優勝(6分切り)でした。しかし、この大会で最も得なければならぬことは、朝日レガッタでの敗北による自信を取り戻すことでした。優勝することで自信を取り戻すことが最たる特効薬だと思い、この大会に挑みました。予選ではクルーの身体の状態が良くなく、余裕のない状態でレースをしてしまいました。1着でゴールできましたが、



C: 桑原康彰
S: 阿部正典
7: 糸魚川宗志
6: 櫻間達也
5: 大森健太

4: 藤原駿也
3: 久保剛
2: 村田真哉
B: 原田遥大

第4回 西日本選手権



2017年 6月10日~11日
於: 浜寺漕艇センター



レースNo.123 準決1組(8:54 発艇)

レーン	クルー	着順 1000mタイム
②	立命館大学C	3 4'11"14
③	立命館大学A	1 4'01"45
④	龍谷大学A	2 4'10"65
⑤	同志社大学A	4 4'17"60
⑥	関西学院大学	5 4'20"44

朝日レガッタに向けて、女子ダブルAは1カ月以上前から練習した。艇の進みが悪くなり悩んだこともあったが、大会までにベストの状態にもってこることができたと思う。やる気も自信も十分にあった朝日レガッタの結果は準決勝敗退だった。予選は自分たちらしい漕ぎができ、22クルー中5位だった。準決勝は強みであるスタートが決まったものの300m付近のラフコンで水を引っ掻くような漕ぎが続いた。脚蹴りでリズムを作り直せず、結果は4位だった。悔しかった。今後行われる西日本、関西選手権は悔し涙ではなく喜びの涙を流したい。(齋藤暢子)



S: 宇佐見侑紀
B: 齋藤暢子

レースNo.112 準決1組(7:30 発艇)

レーン	クルー	着順 1000mタイム
①	佐野(E.R.C.C)	6 3'54"26
②	中村(同志社大学A)	5 3'50"05
③	高橋(山口合同ガス)	4 3'47"39
④	福井(東レ滋賀)	1 3'38"93
⑤	東田(瀬田漕艇クラブA)	3 3'46"86
⑥	Poulsen(デンマーク)	2 3'46"26

予選は組み合わせも良く、特に乱れることなく落ち着いて漕ぎきることができたが、自分にはまだまだ速くなれる部分があると思えたレースだった。準決勝では運が良くか悪くか日本代表の福井康さんと並べることができた。この上ない経験だと思えばスタートから全力を出して漕いだが200mぐらいでもう見える範囲にはいなかった。このレベルで力の差があるのか、これほど自分は遅いのかと思わされた。前半で飛ばしたせいか、後半では他選手のラストスパートにも着いていけず、そのままゴールして終わってしまった。体力面、技術面ともに不十分さを感じさせ



中村魁

今大会の目標は、圧倒的な実力を示しての優勝だった。予選、風が強く、急遽1000mレースになった。久々の1000mということもありペースが分からず、前半攻めきれずにいたが、600m地点から全員で水中を上げたことにより何とか全体トップタイムで予選を通過することができた。ただ、朝日の時ほどトップスピードが出なかったことや不安定性さが気になった。決勝では、名大と府大に勝ち切り優勝するこ



対校8+
C: 桑原康彰
S: 阿部正典
7: 糸魚川宗志
6: 櫻間達也
5: 大森健太
4: 藤原駿也
3: 久保剛
2: 村田真哉
B: 原田遥大

平成29年度 関西選手権 競漕大会



2017年 7月1日~2日
於: 浜寺漕艇センター

レース No.94 決勝 1 組 (15:21 発艇)

レーン	クルー	着順 2000mタイム
①	京都大学	4 8'35"94
②	名古屋大学	6 6'39"44
③	同志社大学A	3 6'30"34
④	大阪府立大学 鳳凰	2 6'28"36
⑤	大阪大学	1 6'25"77
⑥	富山国際大学	5 6'36"50

とを考え、自分たちのレースをして勝つこと、つまり第1Q・第2Qで二艇身以上つけようとした。だが前半での腹切りや、スタートで圧倒的な艇速を出せなかったことが響き、いつもの勝ちパターンに持っていけず、ラストで府大、阪大に先んじられ、3位でのゴールとなった。
敗因としては、実戦経験に乏しくまだまだ駆け引きが弱いところや、他を圧倒できる艇速をスタートで出せなかったこと、不安定さ、チーム力の欠如が挙げられる。来年こそは関西制覇し、同志社の年にしてみたい。(大森健太)



レース No.92 決勝 1 組 (14:51 発艇)

レーン	クルー	着順 2000mタイム
①	同志社大学A	5 7'37"86
②	龍谷大学	3 7'17"23
③	トヨタ紡織	1 7'08"94
④	大阪大学A	6 7'46"58
⑤	岡山大学 六花	2 7'14"36
⑥	大工大 Allegro	4 7'35"05

大会前に立てた決勝進出という最低目標は達成できた。しかしトヨタ紡織、岡山大学、龍谷大学という上位3クルーにはまったく歯が立たなかった。無風や追い風といったスピードに乗る状態では、表彰台を目指すタイムを瀬田で出すことができていたが、浜寺では逆風。クルーの地力がもるに出てしまい、上位3クルーほど完成度がなかった僕たちはパワー勝負になり、決勝は第2Qで完全に離されてしまった。今大会ではクルーの最大限を出せたと思う。しかし、もう少しクルー全員の意見をぶつけ、漕ぎの統一感を求めていくべきだったかもしれない。(山口弘人)



C: 山口弘人
S: 大谷鋭周
3: 黒田宗一朗
2: 古賀寛之
B: 中村魁

レース No.88 決勝 1 組 (13:51 発艇)

レーン	クルー	着順 2000mタイム
①	同志社大学A	3 7'34"05
②	愛媛大学A	6 7'58"91
③	立命館大学	1 7'27"46
④	広島大学Hawk	5 7'40"27
⑤	九州大学	4 7'39"00
⑥	ダイキタケダ	2 7'31"40

今回の大会は企業がエントリーしてなく優勝だけを狙ってレースに挑んだ。予選は全体のトップタイムで勝ち上がり、迎えた決勝では1000m付近までトップを走るも体力値の差なのか立命館に首位を渡し3位となってしまった。本来のクルーの実力は出し切れたと思う。しかしエルゴ値の差が2000mのレースで顕著に出たのは間違いない。インカレまでに体力、技術ともにレベルアップして挑みたい。(星野夏貴)



S: 飯田海舟
B: 星野夏貴

西日本は阪大との一騎打ちだった。予選では阪大はスタートが異様に速く、抜かれてそのままの形で終えた。ただ、強みであるコンスタントで離されることがなかったため、ペースが落ちやすい第3Qで一気に勝負を仕掛ければ抜くことができるのではないかと考えた。



S: 飯田海舟
B: 星野夏貴

レース No.65 決勝 (12:56 発艇)

レーン	クルー	着順 2000mタイム
①	大阪市立大学A	5 5'57"37
②	神戸大学A	4 5'55"68
③	同志社大学	優勝 5'45"52
④	京都大学	2 5'50"49
⑤	大阪府立大学 鳳凰	3 5'55"06

本来の艇速が出せませんでした。しかし、予選後のレースでは1000mまでに勝負しようということとを共有することで、予選とは違うレース展開で進めることができました。
そして、決勝戦。決勝で勝った経験がない中で、自信と不安を抱えてレースが始まりました。この決勝でも1000mまでに勝負することを考えていました。無事にスタートが決まり、コンスタントでもクルーに大した焦りはなく、2位の京都大学にしっかり差を付けて勝つことができました。目標を達成し、何よりもクルー全員が自信を取り戻したことが何よりの収穫でした。(糸魚川宗志)

決勝でも相変わらずスタートで抜かれたが、一艇身以上離されないよう勝負の第3Qまで耐えた。スパートで出られたものの相手も必死に食らいついてきた。だが、相手を見ているのでペースが変われば足蹴りを入れ、何とか1着でゴールできた。だが、第4Qでの失速が気になる点ではある。関西選手権に向けてあらゆるレース展開に対応できる体力の向上、



シングルでの初めてのレースだった。結論から言うと経験値の低さを実感させられた。決勝では実業団の選手に1500m地点までは出ていたが、自分のブイパコをきつ



石田大知

レース No.61 決勝 (12:24 発艇)

レーン	クルー	着順 2000mタイム
①	京都大学医学部 昂流	5 7'53"75
②	愛媛大学A	3 6'53"46
③	同志社大学	優勝 6'44"76
④	大阪大学	2 6'45"94
⑤	甲南大学A	4 7'03"26

またスタートでのトップスピードの向上を狙って練習していく。(飯田海舟)

レース No.58 決勝 (12:00 発艇)

レーン	クルー	着順 2000mタイム
①	村上(品川リファクトリーズA)	2 7'23"06
②	石田(同志社大学)	3 7'28"57
③	増成(品川リファクトリーズB)	1 7'19"31
④	望月(大阪府立大学AURA)	棄権 -
⑤	嶋田(大阪大学A)	4 7'33"67

かけに相手にスパートを入れられ、焦ってリズムを崩してしまった。ただ、シングルでの初めてのレースで3位を獲得したことは素直に嬉しかった。次の関西選手権では確実に実業団を潰して表彰台をもち取る。(石田大知)





第44回 全日本 大学選手権大会

2017年 8月31日～9月3日
於：戸田ボートコース



No.191 決勝A組 (11:10 発艇)

レーン	クルー	着順 2000mタイム
②	南條(熊本学園大学)	4 7'14"11
③	中村(明治大学)	3 7'13"69
④	濱谷(筑波大学)	2 7'14"54
⑤	櫻間(同志社大学)	優勝 7'11"55

予選では、自分の持ち味であるワンストロークの強さが出せず、回転数を意識しすぎて逆風に対応した漕ぎができなかった。結果は、散々なもので、自分の組で3位、全体だと16位。その日に、トレーナー陣の方々の力を借りながら、もう一度ワンストロークの強さを意識して修正を図った。

敗者復活戦からその対応が上手くハマリ、タイムが著しく伸びた。その後も準決勝、決勝とスタートが上手く決まるなど、1レースごとに成長できた大会だと思っ。

しかしまだまだ課題点は山ほどある。残り1年間で、エイト種目で日本一が獲れるように努力したい。

(櫻間達也)

レース No.83 決勝 1 組 (12:51 発艇)

レーン	クルー	着順 2000mタイム
①	伏見(品川フラクトリーズB)	2 8'37"92
②	前田(名古屋大学)	3 8'39"90
③	須藤(岡山大学)	5 8'50"22
④	増成(品川フラクトリーズB)	1 8'29"68
⑤	澤(同志社大学B)	6 8'56"40
⑥	奥村(瀬田漕艇クラブ)	2 7'31"40

1日目、午前は荒天でレースが一時中断し、午後に再開したが1000mレースになった。浜寺の1000mは距離が掴めなくてあまりスパートを入れられなかったがなんとか予選は上がった。準決勝は2000mに戻り、1日目よりは断然漕ぎやすかったものの逆流で、腕で漕いでいることが多かったためか終盤はブレードが返らず腹を切らないよう必死だった。

決勝はとても緊張してスタートだけでも出ようと思っていたのだが、失敗して出遅れ、そのまま最下位でゴールした。シングルで決勝にいたのは良かったが、他の艇が見えない状態でゴールしたのは悔しかった。

(澤駿太)

レース No.84 決勝 1 組 (13:06 発艇)

レーン	クルー	着順 2000mタイム
①	大西(龍谷大学)	4 9'34"26
②	西田(同志社大学A)	6 9'53"54
③	栗山(富山国際大学A)	1 9'08"78
④	四方(鹿屋体育大学)	3 9'24"57
⑤	木佐貫(富山国際大学B)	2 9'17"43
⑥	後藤(島根選抜)	5 9'46"12

今大会ではコンディショニングに対応することができなかったことも含め、技術力の欠如が敗因であった。また、予選、準決勝、決勝と共通してスタート時とコンスタント時では長く課題であった弱点が露呈した。スタート時は、得意のパワーを持つているにも関わらずバランスを気にして有効レンジをとれず、コンスタントではフェザーハイが低いために波に叩かれ、キャッチ前でのワンクッションを挟むためにレートが上がらなかった。

今後はさまざまなコンディショニングでの乗艇練習を重ね、陸上と水上のギャップを早急に埋めることでさらなる飛躍を遂げていきたい。

(西田樹乃)



No.183 決勝B組(9:12発艇)

レーン	クルー	着順 2000mタイム
②	日本大学	1 6'25"61
③	法政大学	2 6'29"03
④	同志社大学	3(総合7位) 6'30"38
⑤	東海大学	4 6'31"26

クルーを組んですぐは、自分たちで取り入れた新しい漕ぎを完成させるために暗中模索の状態だった。毎乗艇考え考え、自分たちのものにしていった。0~1000mと1000~2000mでタイムがあまり落ちないというコンスタント力が一番の強みだった。

レースプランとしては1000mまでは喰らい付いて、後半で抜きにかかうというプランだったが抜ききれなかった。

後悔としてあるのが、ラダーワークが上手くいかずに自分たちの全力を出しきれなかった。全日本では必ずリベンジする。

(石田大知)



今大会は、現状の力試しと戸田でのレース慣れを目的として臨んだ。

予選は序盤に明治大学より出たものの、自分たちのリズムに乗り切れず、レンジが短く力が入ったしんどい漕ぎをしてしまい第3Qで差されてしまった。直前でのメンバー変更や調整不足が原因だった。B決勝で勝つために翌日の朝練で丁寧に確認をして、自分たちのリズムを取り戻してからレースに臨んだ。

練習の甲斐もあり、B決勝では楽なリズム

第67回 東日本選手権 競漕大会

2017年 7月15日～16日
於：戸田ボートコース

C: 桑原康彰
S: 阿部正典
7: 久保剛
6: 櫻間達也
5: 大森健太

4: 藤原駿也
3: 藤原嵩
2: 村田真哉
B: 原田遥大

No.178 決勝B組(8:22発艇)

レーン	クルー	着順 2000mタイム
②	西田(同志社大学)	2(総合6位) 8'25"15
③	四方(鹿屋体育大学)	1 8'21"05
④	吉川(日本体育大学)	3 8'33"41
⑤	市川(茨城大学)	4 8'52"02

関西選手権から続いてシングルスカルでの出場であったが、コンスタントレートの低さと第1Qでの勝負弱さが課題であった。

予選、準決勝では0~500mで相手に抜かれた状態でハーフから勝負を仕掛ける戦いであり、結果として勝ち残ったものの苦戦を強いられた。B決勝では0~500mで並べることでできたものの勝負の仕掛けを遅らせてしまい、距離を縮められなかった。しかし、大会期間中にコンスタントレートを徐々に上げられたことと決勝の第1Qで勝負できたことは大きな成果であった。

(西田樹乃)



レース No.92 決勝 B(13:13 発艇)

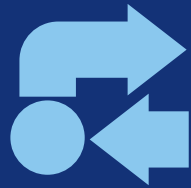
レーン	クルー	着順 2000mタイム
①	東京大学A	5 6'37"66
②	中部電力	2 6'20"82
③	東京工業大学A	4 6'25"83
④	明治大学	1 6'15"98
⑤	同志社大学	3 6'21"12
⑥	東京大学B	棄権



艇を滑らせることができた。序盤から東京大学、中部電力と競る展開となったが、中盤に落ちずに粘ることができ頭ひとつ抜けることができた。しかしラストに中部電力に追い上げられ、0.3秒差で競り負けた。

しかし今大会で、戸田の中堅層には勝ち切れることが分かり、社会人クルーと競り合うこともできたので、インカレに向けて良い弾みになった。残りの1カ月で、戸田の上位層に勝ち切るために良いリズムを追求し、個々の技術レベルを上げ、より一体感を出すことが課題である。

(村田真哉)



株式会社 王子製作所

船舶用艀装部品・建設機械部品
並びに各種製缶加工・一般建築鉄骨施工

本社 兵庫県加古郡播磨町新島23番地
TEL (0794)37-1600(代)
FAX (0794)35-6181

丸亀工場 香川県丸亀市垂水町2747番地
TEL (0877)28-7004
FAX (0877)28-5162



第95回 全日本 選手権大会



2017年 10月26日～29日
於：戸田ボートコース



レース No.118 決勝 A 組 (9:40 発艇)

レーン	クルー	着順 2000mタイム
②	長田(日本紙パルプ商事)	4 7'26"85
③	中野(新日鐵住金)	1 7'09"89
④	櫻間(同志社大学)	3 7'15"29
⑤	福井(東レ滋賀)	2 7'12"22

予選では、インカレの決勝で2秒差だった選手と当たり、自分の力がどこまで伸びているのか試せる機会になった。インカレ後から取り組んできた、バランスと身体の使い方の向上が艇速の伸びにつながっていたと感じる。
準決勝も順調に勝ち上がり、決勝にまで勝ち進むことができた。
決勝では、右も左も日本代表の中でのレーンだったが、経験値の差が出てしまった試合になったと思う。もっと実戦的な練習を積んで、さまざまなコンディションに対応していきたいようにしたい。
(櫻間達也)

今回のクルーは大学で組んだ中で最も質が高かった。集中力が高く、1モーションで確実に課題を解決し、1からハイレベルなテクニックを身につけ高い完成度に仕上がった。試合期間中も1試合ごとに出てきた課題を確実に修正し、最後の順位決定戦ではチョープロ口とのラストスパート勝負を制し1着でゴールした。そして全体5位で学生優勝であった。また、このレースの日本大学は別種目でインカレ優勝したメンバーが乗っていた。インカレからこのクルーでレースをしたかった。
順位決定のレースを振り返ると、良いリズムで漕ぎ通せたのが勝因だったと思う。軽さを維持し、艇に合わせた漕ぎだった。それでもキャッチの精度の落ちから中盤の伸びが足りなかったのも、ここを直せば決勝に届く可能性を感じた。



レース No.127 決勝 B 組 (11:50 発艇)

レーン	クルー	着順 2000mタイム
②	日本大学	4 7'03"92
③	チョープロ	2 6'55"96
④	同志社大学	1(総合5位) 6'55"83
⑤	品川リフラクトリーズ	3 7'03"74

私はこれで引退だが、大学でようやく、技術的な基準をクリアしたクルーを組めたと思う。やるべき事をやったクルーはここまで来ることができると実感した。ハイレベルな全日本のダブルスカルでハイレベルのレースができた。
(阿部正典)



最終目標は世界一

同志社大学体育会ボート部 櫻間 達也

人生一、激動の1年

まずは、日頃からサボートしていたっている家族やOB・OGの方々、先輩・同期など皆さまにお礼を言わせていただきます。ありがとうございます。

同志社大学に入学するまで、ボート競技のことをまったく知らなかった自分がここまで来られることなど、想像すらつきませんでした。新歓で、まだ楽しく優雅にエイトを漕いでいた頃が懐かしいです。

人生の中で、最も激動の1年となりましたが、振り返ってみると、決して平坦ではありませんでした。インカレの1カ月前に、シングルに転向することを決めた時は、当然ですが不安でした。シングルでの初レースがインカレでしたし、「パワーはあるけど、技術は全然ないしな」など、考えればキリがなかったです。それでも、1カ月半の練習期間はとても充実していました。ボート競技を始めて2年になっていましたが、今までで、一番楽しかったですし、日に日に上手くなっていくのが分かるのが嬉しかったです。

勝つための「2つの工夫」

勝つために工夫もしました。
1つ目はタイムトライアルで自分の実力を



た。細かいバランスやテクニクにこだわるよりも、艇を走らせるドライブやリズムを磨くことにより集中しました。

その中で実感したことは、体を大きく使ったドライブの重要性です。フラットやフォワードの動作を気にすることも大切ですが、身体を縮こまらせて艇を滑らせ、大きなパワーを出すドライブが出せなければスピードも生まれませんし、フラットもとれません。逆に、脚だけでなく、長く、強い、運動性のあるドライブができれば、スピードが出て自動的にフラットを保ちやすくなります。

こういった工夫や地道な努力が勝利に繋がったと確信しています。去年のインカレは、今まで出場した大会で一番自信がありました。予選で負けた時でも、「自分の実力が出せたら勝てるはずだ」と敗者復活に向けて切り替えられたのです。

高校時代の恩師の言葉で

僕が高校生の頃の陸上部の顧問の先生がおっしゃっていた「試合では、本当の自分が丸裸にされる。」という言葉があります。どんなに努力しているつもりでも、上手いと思うっていても、試合になれば緊張や恐怖で弱

東京オリンピックへ

現在は、2年後の東京オリンピックに出場することが目標ですが、最終的な目標は世界一になることです。インカレや全日本選手権で優勝しても、ボート競技は日本ではマイナーなので、「ああ、マイナー競技だから勝てるしな」とか少しでも、思われるのが嫌からです。それでは、今までも何をやっても中途半端だった自分と決別することはできません。さすがに世界一のボート選手になれば、日本のプロ野球選手になれたぐらいにはなれるのかなと、自分で勝手に考えています。

何より、ボート競技との出会いが僕にとっては、とても大きな喜びです。感謝してもしきれません。そういった気持ちがあるので、何年かかるかわかりませんが、目標を目指して、努力していきます。



2018年度

ボート部 練習計画



主将
石田 大知

はじめに

今シーズンの練習計画は「全日本大学選手権でベストパフォーマンスを出す」ことを大前提としている。例年は多くの試合に出場し、試合ごとに調整期間を設け、その都度強度を落とし調整していた。この結果、全日本大学選手権にフィジカル面でのベストを持って行くことが難しかった。そこで今年は関西選手権などの大会には大幅な調整期間は設けず、練習強度的に追い込んだ状態で挑む。決して勝利を諦めたわけではなく、全日本大学選手権で結果を出すためには、関西の大会においてどのようなコンディションでも圧倒的に勝利を収めなければ話にならないからである。

今シーズンは肉が裂け骨が砕けようとも、勝つために妥協は許さない。

Rowing

近年のシーズンの振り返りとして、「体が大きくなりパワーがついたのに艇を運ぶ技術がなく負けてしまっ」というのが同志社では流行になっている。果たしてこの振り返りは正しいのだろうか。全日本大学選手権8+決勝、8人

のエルゴスコア平均が6分30秒を切っていないチームはあるのか。答えは言うまでもない。

近年の同志社の体力レベルと比較するのはなく、常勝軍団と比較すると体力やパワーはまだまだ足りない。素人集団が技術で勝る戸田勢に勝とうとするならば、体力でも負けていては到底かなわない。そこで今シーズンは乗艇技術はもちろんのことだが、体力も勝てるレベルまで徹底的に伸ばす。

体力という土台を大きくしていくのと同時に、乗艇技術を向上させ、同志社大学ボート部史上最多の部員たちで統一された漕ぎをするために、平木ヘッドコーチのもと新しい取り組みを多数取り入れている。主な取り組みとして以下のことが挙げられる。乗艇コーチ陣と部員一人ひとりが密に連絡を取り合うため、コーチが担当するクルーを割り当て、毎月変動させることで指導の強化を図る。さらに、月に一度ほどの頻度でコーチ陣による講習会を開催することによって、その時々乗艇練習の狙いを明確化すること、また理想とする漕ぎを何度も何度も刷り込むことで漕法の統一を図る。

選手間では、今年度制作したマニュアルやビデオを積極的に使用し、水陸問わず乗艇技術

に関わる議論を徹底的に行う。またクルーが変わるごとに、KPT式振り返りで徹底的に振り返りをし、常に何が問題なのかを明確化する。今シーズンは、どうすれば艇を速く進めることができるか、どうすれば効率よく出力を出し続けることができるかなど、高い練習強度の中でも常に考え、頭と身体どちらも徹底的に鍛えていく。

Ergo

基本的にStrengthメニューと併用して行う。全日本大学選手権で結果を残すため、選手全員がエルゴスコアを前年よりも伸ばす必要がある。そのため前年度同様に、C P系、解糖系、酸化系からなるA T P（筋肉を動かす時のエネルギー）、アデノシン三リン酸を生成するミトコンドリアを増やすための500m×9本や20分エルゴなどに、前年度より本数間のレストを短縮して取り組む。また、乗艇技術を向上させるために陸上で安定しているエルゴを使用し、フォームチェックやドリルなどにも取り組んでいる。

サポート陣での記録管理やランキング表づくりによって記録を可視化し、部内での自身の位置を正確に把握できるようにしている。この結果、部内での競争が活発になっている。

Strength

2年前より岩井コーチ、堀田コーチの指導の下、エルゴや筋力トレーニングなどの陸上トレーニングを週3回行っている。コーチ陣と学生トレーナーとの連携を図りつつ、練習意図や適切なフォームを徹底するだけでなく、より充

実した練習内容を求めて日々邁進している。今シーズンは漕手自身がなぜそのメニューを実施するのか、どうしたら強くなるのかを考えて練習を取り組むことを目指す。シーズンオフ中は筋力、筋肉量の増強を図り、シーズン中はエネルギー供給を目的とした、スピード系メニューにも取り組むようにする。今シーズンからは陸上トレーニングの記録を他分野でのランキング化、徹底管理を行うことで他者との競争をしつつ、自分との闘いを強いる。関西だけでなく日本全国に同志社の名をフィジカルの面でも圧倒できる存在になるべく、より厳しい環境のなかでさらなる進化を求めている。もちろん、水上での推進力に還元されなくてはならないのは当然のことであり、Rowingの動きを意識して練習に取り組むことで相乗効果を生み出していく。

Nutrition

強靱な身体をつくるためにはトレーニングだけでなく、栄養が必要不可欠である。そのため今年度も同志社女子大学生活科学部食物栄養科学科の片井先生に協力していただき、栄養にも最大限の努力をしている。具体的な施策として、筋肉量や脂肪量などを分析するInbody測定に加え、意識レベル別の集団栄養教育や、漕手一人ずつどのような食事をすればよいかアドバイスをしていたく個人栄養教育を行っている。また月に一度マネージャーが片井先生とミーティングを行うことで、栄養に関する知識を深めている。ここで得た知識をマネージャーのみならず、部全体に共有することでチームとして栄養への意識を高めている。

2 回生の
視点から
見た

同志社大学 ボート部



2 回生
高本 正之甫
法学部法律学科
私立
高槻高等学校出身

う新たな取り組みが始められた。新たな試みであるため手探りが続くかもしれないが、漕手が増え、漕ぎに統一感がなくなっていく中、この取り組みは大変有効だと思う。

また、ここ数年の環境面での進歩は著しい。フィジカルコーチの岩井さん、ストレングスコーチの堀田さんに加え、乗艇コーチの平木さんと小原さんにもご指導いただき、さらに栄養面では同志社女子大学栄養生理学研究室の片井先生と研究員の皆さんにサポートしていただいている。このように、漕手が正しく効率の良い努力をすることができる環境は着実に良くなってきている。あとは我々がいかに応えるか、いかに真剣に努力を積むかだ。

何代もの主将が「今は過渡期だ」と言ってきた。しかし石田主将は言う。「過渡期を終える」と。我々は変わり切らなければならない。同志社大学ボート部の基礎を固め、「強い同志社」に生まれ変わらなければならない。それは部の幹部のみならず、漕手、COX、トレーナー、マネージャー、その全員が「変わる」という意識をいかに強く持つか、それに懸かっている。長い間蟄であった我々が羽化するための材料は揃った。蝶になって夢を掴むか、それとも蛹のまま腐っていくか。勝負の年、今年こそ綺麗な蝶になり大きく飛躍してみせる。

がんばれ、同志社大学!



共に運びます!
個性と絆を・・・
最高の熱量をもったあの場所へ

—信頼と実績の輸送—

広栄運輸株式会社

〒664-0006 兵庫県伊丹市鴻池 4-3-3

【お問い合わせ】

TEL : 072-779-7008 (代表)
FAX : 072-779-7117
Mail : kawamoto@koueiunyu.com
URL : http://www.koueiunyu.com/

大切なのは、仲間との信頼関係と日々の積み重ね。

昭和46年卒 佐々木讓 先輩

― ボート部に入ったきっかけは何ですか。

佐々木先輩 中学はラグビー部、高校は山岳・スキー部に所属していました。私は、二浪した上で同志社に入學しました。オリエンテーションのとき、ラグビー部がボート部で迷っていた自分に高校の友人が声をかけてきたんです。その友人がボート部に入っていて、言われるがまま今出川キャンパスからバスに乗り、瀬田まで行きました。その時に感じた瀬田の印象がとても良く、入部を決めました。

― 現役当時の話を聞かせてください。

佐々木先輩 メキシコオリンピックの翌年、昭和44年に対校に選ばれました。そのとき、重荷にはなれん、ブレイキになるわけにはいかないと思いました。なぜなら、オリンピックに出場した人が6人乗っていたから。嬉しさよりもそのほうが大きかったです。ただ、入部して4年間ボート部をやめようと思ったことは一度もなかったです。自分で入部を決めたのだから判断でいつでもやめられると思っていた。それをバネにしていま

した。幸いにも周りの雰囲気良かったからやめたいと思いませんでした。練習はハードでしたが、練習以外は極めて自由な雰囲気であまりあいていて楽しかったです。

― 忘れられないレースやエピソードを教えてください。

佐々木先輩 エイトジュニアで敗戦したとき、クルーリーダーだった金澤先輩が涙を流しながら「負けたのはすべて自分の責任だ」とおっしゃったことですね。艇庫のコンクリートに涙がぼたぼたと落ちる光景を今でも思い出します。負けるのは辛い、やることをやっていたのかと心から感じました。忘れられないレースは1969年8月に前年に続き、全日本選手権で優勝したこと。この年は朝日レガッタ、関西選手権も優勝し、パワフルでストイックなクルーは向かうところ敵なしでした。練習量の多さに加え、ピッチ40パドル70本10セットのハードなインターバル等があったので自信をもってレースに挑めました。

― ボートをする上で大切だと思うことは何

ですか。

佐々木先輩 1、2回生は基礎体力をつけることだと思います。そして水になじむこと。でも何より大切なのは、同じ目的を持った仲間と信頼関係を築くことだと思います。相手を思いやる気持ちと協調性を大切にしていいます。無理に勝敗にこだわる必要はないが、勝たないと後で振り返ったときにベストを尽くしたのかなと悔いが残るのではと思います。だから、日々の積み重ねも大事だと思います。毎日ひとつずつでもいいから進歩することを大切にしていきたいと思います。

― 現役部員へ一言お願いします。

佐々木先輩 学生生活に加えて、部で日々を過ごせることに對して、周りの人への感謝を忘れずにいてください。難しいけれど、辛い時ほど志を高く持って、夢を追いかけてほしいです。今、この時間はひとつのことに集中できる貴重な時間です。ぜひ大切に過ごしてほしいと思います。

艇速をいかに楽しめるか、今こそ原点回帰を。

昭和53年卒 小森進治 先輩

― ボート部に入ったきっかけは何ですか。

小森先輩 セレクションです。高校でもボートをやっていて、他大学からも声がかかっていたので父に相談したんです。すると、父が勤務する会社の社長が同志社卒だったので、そこでいいんじゃないかということになったのと、高校の3つ上の先輩が同志社ボート部に入っていたので同志社に決めました。

― 現役当時、辛かったことは何ですか。

小森先輩 やはり1年生の時が一番辛かったですね。まず、練習がきつかったのと、血洗いや掃除などの雑用がありましたから。練習は、乗艇してバーベルして、高校時代に1000回でしんどいと言っていたスリージャンプを240回していましたね。みんな一緒にやないですか？1回生が一番辛いと思います。

― 印象に残っているレースや思い出はありますか。

小森先輩 これといったものはないんですが（笑）、おそらくそのクルー全員だと思うんですね。2年生の時のオックスフォード盾レガッタで優勝したクルーは印象に残ってますね。当時のオックスフォード盾レガッタは、対校エイトではなく二軍が出漕していたんです

が、インカレに出ても入賞が見込めない大学の対校エイトも何艇か出漕していたんです。そこに出たら、予選からずっと一位で、みんなからも「もう同志社じゃないの?」と言われて

ちなみにその時の対校エイトはインカレ4位でした。「最近同志社強いね」と言われながら、翌年は予選敗復活。そこから弱い時期が続いて、すごく苦しい練習をしていた分、勝てば覚えているのかもしれないですけど、負けたレースは脳が記憶から排除しているんじゃないですかね。印象に残っていることはあまりないです。

― 当時、仲間の存在はどんなものでしたか。

小森先輩 同期は11人いたと思うんですが、みんなすごかったです。セレクションで入ってきたのが4人で、インターハイ優勝キャプテンもいてとにかくすごいという印象でした。一般で入ってきた同期も180cm越えがいたり、マネージャーもボート好きが多くて楽しかったです。ただ、4年の時の対校エイトのチームワークは悪くて。だから負けたのかなという気はしています。やはりチームワークは大事です。先輩・後輩もみんないい人で、いかつい体をしてても学生らしくて、『ザ・ベストテン』を見るのが楽しみで、当時は松田聖子が超スーパースターで、小さなテレビを囲んでみんなでワイワイ言っていました。あどけなく

て若い輩が集まっていたという印象ですね。

― それほど仲が良いのに、チームワークは悪かったのはなぜでしょうか。

小森先輩 そんなですよ。8人乗るじゃないですか。今の同志社もそうかもしれないけれど、王様を創ってしまうとよくないです。艇が走ったら俺のおかげ、走らなかつたらそれ以外の人間が悪い、と。王様を創ってしまうと、走らない艇はとことん走らない。艇から上がると和気藹々としてはいても、艇に乗るとみんなが変に遠慮をしまつて：もちろん良い時もあると思うけれど、王様を創ってしまうと、その人に合わせなければならなくなつて、ダメだったらその人間以外のせいになるのはよくないし、楽しくないと思います。

― 引退後、再びボートを始めたきっかけは何ですか。

小森先輩 きっかけは2つあります。ある日の犬の散歩中、○○レガッタと書いたTシャツの人も犬の散歩をしていて、その人と会うたびにボートの話をするようになって。再びボートをする気はまったくなかったんですが、子供たちのボートの試合があり、その手伝いに行つたんです。そこで艇を見ていたら、おばあさんが「漕ぎませんか」と。一度は断つたも



の「浜寺にエイト来ますよ」の殺し文句。その日のうちにジャージを買いに行きました。そして乗ったのが『浜寺マスターズクラブ』で、翌年5月の全日本マスターズに出ました。それ以来僕いっぱい組まれてるんですよ。これまでスリーブしかやったことないのにスカル

も組まれて「これはやばいな」と思いました。32年ぶりにエイトに乗って、ピッチ24.25で漕ぐとぜいぜいってすごしんどくて。なのに60、70代の人が普通に漕ぐんです。「これは少し恥ずかしいな」と、32年間社会で汚染された体をまず何とかしようと思い、とりあえずタバコをやめました。

これが二幕の幕開け。歩いていたら後ろから声をかけられたのが小関さんで、舵手付きクオードとエイトで同じレースだったんです。クオードは、横には同志社がメキシコの時に対戦したメルボルンのクルー。連盟が大会に呼んでいたらしく、「これは勝たなあかな」と思いながら漕いで、少しの差で負けてしまいました。

全日本マスターズで知ったのは、慶応や早稲田、京大の50、60、70代のOBが集まったクルーがあって、いろんな種目に出ているんです。僕は、ボートなんてできるわけないと思っていたのにみんな漕いでいる。「今の同志社大学OBは同志社大学ボート部のOBが集まっているけど、ボートを好き、もしくは楽しんでいるのではなく、過去に同志社大学ボート部で漕いだだけのOBが集まってごちゃごちゃいうばかりなんだよね。そうじゃなくて、もっとOBも現役もボートを楽しむ。OBも、ボートを好きで楽しんでなかったらダメなんだよ」と小関さんと話していました。その後、翌年の熊本での全日本マスターズに出漕する予定が地震で中止になったために、小関さんから北海道の試合のお誘いをもらい、人を集めて「WILD ROVER」という名前で出漕したんです。それから浜寺でも漕ぎながら「WILD ROVER」でも漕いでいます。全員同志社出身でも浜寺マスターズの名前で出漕したり、別の大会に同じクルーで「WILD ROVER」の名

前で出漕したり。そういうのも良いなあ、と続けていきたいですね。

散歩から始まり、おばあさんに声かけられて、全日本マスターズで先輩に会い、「同志社OBは俺とお前以外誰もやっていない、これはいけない」という話になり、人を集めていたら、自分が関西を仕切ることになって抜けれなくなつた……そんな感じですね。

「やはり、エイトでないとボートを再びはじめる気にはならなかったのでしょうか。」

小森先輩 当時の大学と言ったらどこもエイトだったんです。対校に乗れない人が二軍で、エイトに乗れない人がスカルとかフォアとかで。やはりエイトへの思いは強かったんで、「エイト漕げますよ」といわれて自分がやる気になったのと同じように、誘った人たちもみんなその一言でやる気になった感じです。

「再びボートをするのに対してはどのような思いがありますか。」

小森先輩 ボートは苦しくて辛くて、年を取ったらできないと思っていました。でもそうではなく、ボートは楽しめるものだと感じています。他大学のOBと話す機会があると、「どつしてメキシコへ行ったときのクルーは出てこないのか」と言われます。僕は「知らん」と返すんですけど(笑)。

そういう点では、同志社大学ボート部OBではなく、純粹にボートが好きで、ボートを楽しんで、同志社大学ボート部のOB……こんなこと言ったら怒られるかな……もうちょっとみんなと一緒に漕ごうよ、とか、応援しようよ、とか、そういうのがいいなと思います。僕が今

年、朝日レガッタに浜寺マスターズで出たとき、滋さんが「小森頑張れ、林田頑張れ」と応援してくださったんです。そういうのっていいなと思います。「エイトが勝たないかん」「同志社っていうのはエイトなんだ」「2位じゃダメなんだ」とか、いろいろ言い過ぎているなあ。同志社大学ボート部を卒業したというのはもういいんです。オリンピックに出た、全日本2連覇だった……それは強かった時の話、神話みたいなもので。そんなことにこだわるより、楽しく漕いでる集まりの中にOBの会があったり、現役があったり、と考えてやっていかないとダメなのかなという気がします。人数が足りないときには他大学OBにお願いしたり、女性に乗ってもらったりするかもしれない。だから、僕は同志社大学ではなく「WILD ROVER」でいこうと思っているんです。それを大事にしていきたい。それにはやはり『漕友』が大事だと思います。

「ボートをする上で大切だと思うことは。」

小森先輩 ボート競技の中でも全然違う種目がひとつだけあって、それがエイトだと思います。シングルは下手でも、体力があれば勝てることもあるし、フォアもそんな感じですけど、やっぱりエイトはちょっと特別だという気はします。そういう点で、先ほど言ったように、大きくくると、チームワークや信頼関係が大事だと思います。信頼関係はみんなが頼られるからできるもので、みんなが頼ってしまうと弱いチームになる。でも頼られる人ばかりだったら強いクルーができると思います。何が大事かという点、エイトに関してはやはりチームワークとかですね。まず合わせる。とか。まあ、ボートをする上で一番大事なものの

は何かと聞かれたら、まだわからないですね。ただひとつ言えることは、ボートの艇速を楽しまないといけないという気はしますね。

「最後に、現役にメッセージをお願いします。」

小森先輩 気になったことが2つあります。選手の準備が万全でも、艇が万全じゃなかったら勝てない。まず何が重要なかを最低限わかっていなければどんな競技も勝てません。その辺をまずぎっちりやらなくてはならないのではないかと。これがひとつですね。

あと、今年の関西選手権の決勝。普段、阪大はエイトの練習もしてなくて、フォアとフォアのクルーが乗ったエイトだったんです。体格もエルのタイムもはるかに同志社のほうが上なのに阪大が勝った。勝ち進むにつれ、阪大は明るくなっていくんです。常に笑顔で笑い声も聞こえる。でも同志社はどんどん暗くなっていった。いろんな人に「病んでるなあ、同志社」「メンバーを見たらどう考えても同志社なのに、負ける理由がわからない」と言われました。僕は根本的、基本的なことがわかってないんじゃないかなと思います。最終的には、王様を創ったらダメです。エースはいらないんです。共通しているのは、艇速をいかに楽しめるか。体格良くエルのゴも速くて、でも集まったら弱い、それでエイトから降りてシングルに乗ったら優勝。それはOBも言いますよ。僕が現役諸君に言っているのは、速くするためにどうするかとか、みんなで合わせていこうとか、もう一度原点に戻るべきだということ。難しいことはわからないですけど、とにかく合わせる、走ったら喜ぶ、そういうクルーでなかったら勝てないと思います。統括すると、「楽しくやってよ」です。とにかく勝ってほしい、それだけです。



Lumiebre



古賀 寛之

Hiroyuki Koga

社会学部社会福祉学科
大阪府立芥川高等学校出身

初めに、監督・コーチ陣の皆様、OB・OGの先輩方4年間支えてくださって誠にありがとうございました。

4年間で振り返ってみて、本当にいろんなことがたくさんありました。ほとんどが予想せぬことばかりで、時に嬉しく、時に憤ることもありましたが、飽きることのない良い大学生活だったと思います。僕にとっては毎日が悲劇であり喜劇でした。

ボート部に半分不純な理由で入部してからは、とにかく小艇が大好きで沈すること自体も楽しみながら漕いでいました。入部当時のあの純粋さを持ちながら最後まで突き抜けることができたよかったです。悩み苦しむこともありました。

しかし、仲間に使われてどうにか最後までやり抜くことができました。本当に感謝しています。

最後に、後輩に伝えたいことがあります。戦う手段も方法も無限にあると思います。ぜひ自分だけのやり方で楽しく漕いでください。

ありがとうございました。



糸魚川 宗志

Soushi Itoigawa

商学部商学科
札幌市立藻岩高等学校出身

「ボートをやらないか」。昔から野球一筋の私に、事あるごとに父はそう言ってきた。

大学時代にボート部に所属していたこともあり、執拗にその言葉を聞かされ続けた。父がそこまで言うからには何か理由があるのではと感じ、騙されたかのようにボート部の新勧に向かってみた。するとそこには、熱い思いを抱いた先輩方や、気の合う同期たちがいた。こんな環境で4年間を送ってみたいと思った。

しかし、自由のない生活や思うように勝つことができない現実を目の当たりにした時にこんな生活を自分は望んでいたのか、という疑問が出てきた。そう思うたびにボート部への入部は間違っていたと思い、さらには父のボート部の勧めを恨むことさえあった。

しかし、ボート部には自分を必要としてくれる仲間、一喜一憂を共にする仲間、悩みを聞いてくれる仲間がいた。だからこそどんなに辛いことがあっても、最後まで続けることができたと思う。もちろん、監督やコーチ、家族の支えも非常に大きかった。

今後、ボート競技をすることはないと思うが、社会人になってもどんな形で良いからボート競技やボート部との繋がりを大切にしていきたい。



星野 夏貴

Natsuki Hoshino

グローバル地域文化学部
グローバル地域文化学科
島根県立松江東高校出身

日本一を目指して入部を決めたボート部での4年間は上手くいかないことばかりでした。1回の冬に腰の怪我でエイトに乗れなくなるところか運動もできず、みんなが練習しているなか飯準をしていた6ヵ月間は本当に地獄でした。しかし私はこの経験があったからこそ自分が成長できたと思います。

私が最終学年になって意識したのは、とにかく「運」を味方にする。ボートの0.1秒の差はエルゴ、乗艇技術の向上よりも如何に運をもたすかだと私は考え、自分なりにテーマを掲げて生活してきました。世には存在しない言葉ですが「礼始礼終」を徹底したこと、そして信頼関係で艇速が決まるボートにおいて、クルーだけでなく「人を信じること」はおそらく人一倍意識していました。ボートは自分やクルーだけで進めているのではなく、みんなの想いをどれだけ艇に乗せて進めるかだと思います。

朝日の決勝の同志社テントがある750m付近で急に艇速が上がったあの感覚は忘れられません。みんなで勝利の集合写真撮った時の幸せは忘れられません。ここまで続けられたのも先輩や同期、後輩、コーチ、監督、家族など、すべての人を信頼し、信頼してもらったからです。

本当にお世話になりました。



松本 直弥

Naoya Matsumoto

経済学部経済学科
兵庫県立御影高等学校出身

「最後の学生生活、ボートに懸けるべき。こんなに熱くて素晴らしいスポーツはない」と声をかけられた先輩の姿を今も鮮明に覚えています。子供のように目を輝かせ、熱く、そしてなにより楽しそうにボートのこと、ボート部のことを語る先輩に惹かれ、憧れ、ボート部に入部を決めました。あの時の出会いに感謝しています。

入部してからというものは、地獄の毎日でした。夏は灼熱で、冬は極寒のトレルでの生活、終わりの見えない練習、猛烈的な睡眠魔と闘いながら受ける授業。今思えば懐かしく、どこか寂しくも感じられます。ですが、不思議と一度も辞めたいと思ったことはありません。それは一度決めたことを簡単に投げ出さないという気持ちはもちろんですが、周りを見渡すと自分と同じように必死に歯をくいしばる先輩後輩、そして同期の姿があり、そんな彼らと過ごす日常はほんとに楽しく充実したものであったからです。

卒業を目前にこの4年間で振り返ると、私はボートを通じて日々懸命に生きる大切さ、感謝の心、そして出会いの素晴らしさなど多くのものを学びました。そしてこれらに関わってくださったすべての方々にこの場を借りて感謝申し上げます。

4年間ありがとうございました。



松坂 滉

Hiroshi Matusaka

社会学部メディア学科
西宮市立西宮高等学校出身

ボート部に入部した序盤は苦しい生活についていくのが精一杯でした。生活に慣れ始めてからは「この部になにができるだろう」と考えていました。ずっと部内で下から数えた方が早い位置にいた私は、自分がこの部に必要なのだろうか和本気で思っていました。もちろん結果を出すことがシンプルかつ最も正しい答えです。私は結局勝つことができませんでした。それがこの4年間で唯一にして最大の悔いです。本当に勝てなかった、その一心でした。

表彰状やメダルといった有形のものは残せませんでしたが、残せた有形のものがあるとするとしたら、100人を越えた部員です。競技では力になれませんでした。新歓では自分がこの部にいる意味を少しは感じることができた、今でも少し思い出して笑いをしています。

無形有形に限らず言うならば、この4年間で得たものはたくさんあります。体力、精神力、根性、負けん気、信念、プライド、積み重ねた敗北、食らいついた勝利、そして同期という最高の仲間です。

最後になりましたが監督、コーチ、OB・OGの方々、先輩方本当にありがとうございました。



阿部 正典

Masanori Abe

スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科
愛媛県立今治西高等学校出身

「長かった」。これが私の4年間だ。振り返るのにさえ時間がかかる。いくつか理由がある。そのひとつは、自分の2つの立場が変わらなかったことだ。競技力で部を引っ張る立場と、指導する立場だ。前者は漕手として当然だが、後者の自分が指導しなければと思った理由は、同志社ボート部には競技の知識、経験が不足していると感じたからだ。事実、正しいグリップの握り方さえ知らない未経験者部員が大勢いた。部外の方に教えてもらい、経験と理論から体系立てて指導した。指導上の目標は「艇の進め方がわかるようになってもらうこと」だった。艇が走るように漕ぐことはテクニクの答えで、ある程度わかればあとはフィジカルで何とかなる。

結果、8+のカテゴリーは1:12出ていた。明生、中電など実業団に勝利したレースもあった。しかし、ラフコン適応の練習が少なく成績には残らなかった。残ったものを考えると、他の環境で頑張った方が良かったのではないかと思うことが多い。だが、入部当初の状態から部をここまで強くした経験に胸を張ると思う。

支えてくれた両親、家族、友人。同じ艇に乗った漕手、共に努力したマネージャー、トレーナー、部員、監督コーチ陣、OBの方々、お世話になりました。ありがとうございました。



村田 真哉

Shinya Murata

経済学部経済学科
大阪府立四條畷高等学校出身

はじめに、ボート部での生活に関わったすべての方々に感謝の言葉を口にしたいです。今まで本当にありがとうございました。ボート部として活動できたこと、そして何より人として大きくなったということに関して感謝の気持ちでいっぱいです。

ボート部では非常に多くの人との出会いがあり、本当にさまざまな考えの人がいるということを知りました。そこで「人と話すことでの成長」や「人との出会いを大切にすることの重要性」を知ることができました。これまであまり人に関心がなかった自分にとってこのことは大きな変化であり成長でした。また酒を交え、本気で語り合うことの楽しさも知りました。

また、組織を作るという点に関しても苦心しながら成長することができました。限られた資源の中で組織の目標達成を目指すにはどうすべきなのか。部員がストレスなく共同生活を送るにはどうすべきなのか。他では経験し得ないこれらの悩みや熟考を通して、人としての引き出しが豊富になったと自負しています。

私はボート部で数え切れないほどの成長を得ました。その感謝を体現するためにも、良心に満ち溢れ自治自立の精神を備えた有為な人材として社会に貢献していきたいと思っています。



能勢 政典

Masafumi Nose

経済学部経済学科
私立同志社高等学校出身

成功者にはだいたい、強力な「頑張る力」というものが備わっている。もしあなたが、10段階中の10だけ本気になる人間なら、たとえ今の世界で成功できなくても、また好きなことを見つけて、もう一度その「10」を掛けて「100」にすれば良い。またダメだったら、また違うことを見つけて「1000」にすれば良い。本気で頑張れる人間はいつか必ず成功する。

この場所で見つけた、ひとつの答えです。

この同志社大学ボート部という世界では、皆がそれを示さんとし、そして私はこの答えをこれからも証明し続けるために生きていこうなんて思ったり思わなかったり。まあいつも10も頑張れる人間なんて、そんなにはいないもんです。

さて、偉大なる先輩方から受け継いだ、この素晴らしい歴史と大きな想い。私たちの力を少し足して、また繋いでいくことができました。私たちを育て旅立たせてくれた数多くの先輩方、いつも楽しませてくれた同期たち。諦めた夢もきっとあるでしょう。だけど想いは繋がり、またひとつ道を標すことができました。こんなものでどうでしょうか。

では、いつか来る新しい時代を、後輩たちの努力が報われる日の訪れを信じながら、そろそろ私はお暇させていただきます。



佐武 宏哉

Hiroya Satake

社会学部社会学科
和歌山県立田辺高等学校出身

同志社で漕ぐことが決まり、寒い中も練習していた高3の冬。あれから4年も経ったことにとても驚いています。

この4年間は満足とは言えませんが、納得のいく日々となりました。2回生の時に手術をすることを決めた際には後押ししてもらい、仲間をはじめOBの皆さまにも温かい言葉をかけていただきました。15ヵ月ぶりに出場した関西選手権では『同志社〜！佐武〜！』という声援が聞こえてきて、漕ぎながらも泣きそうになったのを覚えています。

しかしエルゴを漕がないことから出場機会を失い、最終的に選手を辞めることに。とても悔しかったけれど、残るという選択は間違っていないと思います。1回生とは今出川モーションに始まり、もう着くこともないと思っていた同志社コースーを着て一緒に乗艇もさせてもらいました。その中で指導する楽しさを改めて感じ、僕のポートへの最終的な関わり方はこれだと再確認できました。

卒業後は教員の道に進みます。高校時代から憧れていたポート部顧問になった際には、公認コーチ資格も活かしながらポートの素晴らしさを広められたらと思っています。

最後になりますが、4年間支えてくださった皆さま、本当にありがとうございました。またポート会場でお会いできる日を楽しみにしています。



桑原 康彰

Yasuaki Kuwahara

文化情報学部文化情報学科
私立智辯学園高等学校出身

私は4年間のポート部生活を通して、「自分1人では何も成し遂げられない、周囲の支えあってこそ自分の自分」ということを教わりました。

対校の一員として、私は2年間第一線で戦ってきました。お互い勝利への想いが強いからこそ、仲間と意見が食い違うたびに、納得のいくまで激しく議論を交わし、その都度信頼関係を深めてきました。自分1人では逃げ出してしまいそうな場面でも、仲間の妥協しない姿勢が、私を何度も奮い立たせてくれました。また明治安田生命や東レ滋賀などの外部の団体、他大学との交流を通じて、コックスの神髄を会得し、人としても、コックスとしても、大きく成長させてもらえました。

このようにポート部で過ごした1240日間は、まさに周囲の支えのおかげで成立した最高の日々でした。熱い指導をして下さった監督、コーチ及びOBの方々、親身になって相談に乗って下さった先輩方、苦楽を共にしたかけがえのない仲間、手厚くサポートしてくれたマネージャー、そして温かく見守ってくれた家族、これらの方々の存在なしでは、この『力漕』を執筆する日を迎えることができませんでした。

この場をお借りし、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



三井 敏匡

Toshimasa Mitsui

文学部文化史学科
岐阜県立岐阜北高等学校出身

今まで支えて下さった皆さま、ありがとうございました。この4年間の振り返ると、1回生の時のナックルレガッタがとても印象に残っており、私の人生を変えたと思っています。

当時、私は共同生活に慣れず、この試合を最後にポート部を辞めるつもりでした。私は同期の松本と同じクルーだったのですが、彼は運悪く欠陥オールを選んでしまい、何度も腹をきって私たちは負けてしまいました。小さな大会ですが、初めてポートの試合に出て負けたことで「辞めたい」という思いより「勝ちたい」という思いが強くなりました。ここである程度のレースをしていたら私はポート部を辞めていたと思います。彼がたまたま欠陥オールを選んだことに何かポート部との「ご縁」を感じるとともに、当時の私の選択が間違っていなかったと最近思います。

ポート部では自分で考え、選択しなければならない場面が多くありました。この試行錯誤しながら過ごした4年間は、今までの人生で一番自分を成長させてくれましたし、この環境を与えてくださったポート部には非常に感謝しています。

社会人になっても同志社大学ポート部出身ということに誇りをもって日本を支えていきます。ありがとうございました。



大森 健太

Kenta Oomori

商学部商学科
私立清風南海高等学校出身

この4年間、本当にたくさんのことがありました。試合のたびに「勝ち切ることの難しさ」を痛感し、監督やOBの方、現役の期待を裏切ってしまいました。他にも、チーム内の温度差で悩むことや、ポートが速ければ何をしてもいいという価値観に苦しみむこともありました。この練習をすれば強くなるとわかっているのに、腰の痛みでどうにもならないこともありました。

一方、エルゴでタイムにこだわって自分に打ち勝ったときの達成感や、同志社の看板を背負って勝負できること、たくさんの方々から応援していただき、結果が出た際に自分のことのように喜んでいただいたときなど、本当に充実していましたし、幸せでした。

あらゆる部分でまだまだ未熟な私ですが、このポート部生活を通じて得た「辛いことを楽しむ力」や「とことん愚直にこだわる力」、「まずやってみる力」を武器に、社会に出てから、常に勝てるように精進していきたいと思っています。

最後になりましたが、私や同志社大学ポート部に関わってくださった皆さま、ポート関係者の皆様、これまでの23年間支えてくださった家族には感謝しています。

今まで本当にありがとうございました。



奥谷 翔

Shou Okuya

社会学部産業関係学科
兵庫県出身

永遠に終わることがないように感じたポート部での4年間でした。現役でいた頃は、朝4時にかけた目覚まし鳴る直前にフツと目が覚めることも、夜10時後の暗闇の中で次の日の準備をしていることにも、いつの頃からか何の疑問も感じずに生活を送っていました。しかし、引退後に一般的な大学生のリズムで生活を始めると、これまでの集団生活ならではの特殊性をしみじみと感じ、ポート部だからこそその酸いも甘いも噛み分けることができた良い4年間を過ごせたのかもしれないと、すべてが終わり振り返ってみると、そんな気がします。

卒業後、私はこれから大きな変化が起って行く物流業界の中で戦っていきます。その時、どんな逆境にぶつかっても、私を鍛えてくれたこの4年間の思い出し、強い気持ちで挑み続けていこうと思います。

最後に、この4年間私を支えてくださった家族、先輩後輩、OBの皆さまがたには心から感謝しています。また、その中でも同期の仲間たちには、大嫌いなのに大好きと思えるほど仲良くしてくれたこと、非常に嬉しく感じています。引退後も、みんなで集まり近況を報告していければいいなと思います。

それでは4年間、本当にありがとうございました。



黒田 宗一郎

Souichiro Kuroda

経済学部経済学科
愛媛県立松山中央高等学校出身

いきなりですが、自分自身ポートはよく分かりませんでした。もちろん体力値も上がり、分かる範囲で後輩への指導などはしましたが、ポートの真髄のようなところまではたどり着けなかったというのが率直な感想です。

自分の探求不足なのかポートの奥が深すぎるのか…、おそらくどちらかもしれませんが、せっかくの『力漕』なので、現役部員へは、時間はあるようで実はそんなにない、ということを伝えたいです。

引退して落ち着いた生活を送っていると、改めてポート部生活の過酷さを感じますが、同時に現役生を羨ましく思います。まだまだこんなにポートを漕げるのだから。

毎日死ぬほどきつい練習をこなしている側からすれば嫌みったらしく聞こえるでしょうが、もっと上手くなりたかったという後悔は、もっと成績を残したかったという後悔以上に残ります。

大学生活は長いですが、でもポートをやる上では決して余裕はありません。毎日毎日探求し続けてください。



槇田 颯一郎

Souichiro Makita

社会学部産業関係学科
西宮市立西宮高等学校出身

4年間の大学生活をどう費やすか。私は、18年間の人生で見たことも聞いたこともないポート競技に大学生活を捧げることに決めた。それが間違いであったのかとか、最高の選択肢であったのかは私でも分からない。でもこれだけは断言できる。「後悔は一切していない」。

私のポート部人生は決して人から憧れられるようなものではなかっただろう。結果を出せたわけではないし、誰よりも頼り甲斐のある先輩だったわけでもない。たとえ他人からちっぽけな4年と言われても反論はしない。でも私は、この4年を一生誇りに思って生きてゆけると確信している。スランプにひたすら苦しめられた期間も、信じられないほどしょうもないことで、部員みんな笑い転げたりしたことも、部員と真剣に部のことを夜通し話し合ったことも、ポート部での出来事すべてが私を作り上げ、成長させてくれた人生の財産だ。この財産は死ぬまで絶対消えない。そんなものをくれたポート部へ本当に感謝が絶えない。

最後になりましたが、120年以上部を守り続けた先輩方、これから新たな歴史を作り上げてくれるであろう後輩たち、共に歴史を守り、作ってきた同期の皆、今まで本当にありがとうございました。これからはOBとして一生を掛けポート部を応援し続けます。強くなってください。



北野 裕樹

Yuuki Kitano

経済学部経済学科
滋賀県立膳所高等学校出身

はじめに、監督やコーチの皆さま、多大なる支援をいただいたOB・OGの皆さま、現役時代お世話になった先輩方、多くの時間をともに過ごした同期、後輩たち、そして両親など本当に多くの人々の存在があったからこそ、私は最後までポート部で漕手として活動することができたと、今強く感じています。そのすべての人々に対して厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

ポート部での4年間は楽しい出来事もありましたが、多くの辛い出来事も経験しました。学年が上がるにつれ、この組織のためにどう力になるべきかを常に考え行動しましたが、その理想と現実のギャップに苦悩しました。このようにこの4年間は決して満足のいくものではありませんでしたが、挑戦してみないと気づけない多くのことを学ぶこともできました。

最後に、後輩へは自分の信念を貫いて欲しいと思っています。その信念は人それぞれ違い、他者の価値観の押し付けで形成されるものではないと思います。みんなにはポート部という大きな組織全体の目標を成し遂げるためのベクトルは違えず、その中で自らの信念も成し遂げることで自らの可能性を広げていって欲しい。

これが私からのメッセージです。ありがとうございました。



近藤 晴子

Haruko Kondo

文学部英文学科
私立加藤学園高等学校出身

4年間のボート部での生活を終え、さまざまなことを振り返ってみると、周りの人への感謝が一番大きいなと思います。それまで経験したことのないマネージャーという立場で組織に関わることで悩むこともたくさんありました。しかし尊敬する先輩方、共に頑張っている同期、かわいい後輩たちなど、本当に周りの存在があったからこそ最後までやり切ることができたと思っています。

先輩たちの姿に大きく惹かれた新歓、2回生のインカレの他大学のエイトの決勝を見て、同期のマネージャー全員と涙を流したこと、留学に行きたくて部活を続けるか悩んだこと、最後のインカレでの最終日に戸田でOne Purposeを歌ったことなど全部、ボート部のマネージャーとして続けてきたからこそ考え方が変わったり、成長することができ、そしてそれらが私の糧になっているのだと思います。

ボート部として過ごした4年間、関わってくださったすべての方々に感謝しています。本当に今までありがとうございました。後輩たちの活躍を楽しみに、これからはOGとしてボート部を温かく見守っていきます。



山口 真奈

Mana Yamaguchi

経済学部経済学科
私立同志社高等学校出身

この人たちと何かやりたい。それがボート部に入部した理由でした。人と直感で入部したこの4年間では多くのことを学びました。

思い返してみると、ボート部での生活は楽しいことよりも辛いことの方が多かったかもしれません。勝つことの難しさ、価値観や考え方の異なる仲間たちとチームで力を合わせる難しさを身をもって感じました。この行動は果たしてチームのためになっているのか、勝利につながっているのかと考えることが多く、特に同期マネージャー間ではその考え方の違いから意見が衝突することも多くありました。しかし、そんなふうに衝突したのもみんなが勝つことに一生懸命で熱かったから。夢中になれるものを見つけ、目の前のことに一生懸命取り組める環境のもと活動させていただけたことにとても感謝しています。

そんなボート部での経験一つひとつが今の自分を作ったかけがえのない思い出になりましたが、私が最後まで続けることができたのは共に頑張る先輩や同期、後輩がいてその姿や想いに助けられたからだと思います。

最後になりましたが、同志社大学ボート部を支援してくださっているすべての方々に心より感謝いたします。本当にありがとうございました。



田口 夕侑乃

Yuuno Taguchi

政策学部政策学科
私立岐阜女子高等学校出身

今まで支えてくださったOB・OGの皆さま、監督・コーチ、先輩方、同期、後輩、4年間本当にお世話になりました。この場をお借りしまして、厚く御礼申し上げます。

「大学4年間で追い求めてきたものは何か」と聞かれたら、私は最後のインカレでOnePurposeを歌った瞬間そのものであると答えます。

体育会は勝つための組織、ただ、部員の本当の目的はその勝利の先にある、そう感じました。その時のことで私が思い出すのは、首にかけてもらったメダルの色や形、手にとったトロフィーの形ではありません。勝利の瞬間を目の前にみんなで走ったあの緊張感、勝利の瞬間のあの高揚感、そして涙を流しながら校歌を歌った時の幸福感です。どんな時の感情よりも鮮明に、思い出すことができます。同志社大学ボート部でしか共有できない特別な感情でした。

入部を決めた時から引退の時まで、マネージャーとして同志社ボート部を強くしたい、その思いで行動してきました。同じように熱い思いで過ごしてきた、あるいは今も過ごしている仲間がいることを、そして自分が4年間同志社大学ボート部員として過ごしたことを誇りに思います。

本当にありがとうございました。



高瀬 絵留萌

Erumo Takase

経済学部経済学科
福岡県立城南高等学校出身

知れば知るほど、知りたいことが出てくる。そこがボートの醍醐味であり、奥深さである。私がそれに気づいたのは3回生の後半でした。福岡県代表として国体に出場し、そこでのコーチや他大学の仲間との出会いが、ボートへの姿勢を変えました。悩んだ時には相談できる仲間の存在が私のモチベーションを向上させ、ボートが面白くなりました。このような機会をくださった金野コーチには本当に感謝しています。

そして、最後の朝日レガッタでは初めて決勝に残る経験ができ、その後の大会では1位で勝ち上がる喜びを知ることできました。「ボートは3年目から楽しくなる」と聞いていた通り、3年目で楽しくなり、4年目で好きになり、もっと漕ぎたい、うまくなりたい、勝ちたい、そう思うようになりました。

私のボート人生は、決して結果が残せたものではありません。しかし、コーチやOBの皆さま、同期、福岡の仲間、そして両親に感動や感謝を届けられるレースをしたいという「想い」をもって練習していた最後の1年は、私を大きく成長させてくれました。

最後に、同期の女子漕手が私1人になってしまっても続けられたのは、面白くて温かい同期のみんなのおかげだと思っています。ありがとう。



八木 友菜

Yuuna Yagi

経済学部経済学科
私立同志社高等学校出身

はじめに、監督、コーチの方々、OB・OGの皆さま、先輩方、同期のみんな、後輩たち、今まで本当にありがとうございました。この場をお借りして感謝申し上げます。

ボート部での活動は、嬉しいこと・楽しいことだけではなく、苦しく悩むこともあり、とても濃い充実した4年間で、私の大学生活の中心でした。

私はボート部の雰囲気良さ、先輩たちのキラキラ輝く姿に惹かれ、マネージャーとして入部を決めました。しかし、マネージャーの仕事は今まで経験したことがない大変なことばかりで、ギャップを感じたことを覚えています。マネージャーの仕事を通じて、目の前にあることを受動的にこなすのではなく、チームの勝利のために自分に何ができるのか、自分で考えて行動する大切さを学びました。また、さまざまな壁を乗り越えてきたことで成長することができました。

しかし、壁を乗り越えられたのは自分の力だけではなく、手を差し伸べてくれた先輩、一緒に悩んでくれた同期、信じてついてきてくれた後輩の存在がとても大きく、周りの人に支えてもらった4年間だったと感じています。

ボート部での活動は私の誇りです。今まで本当にありがとうございました。



前田 真奈

Mana Maeda

政策学部政策学科
私立筑紫女学園高等学校出身

「応援する人は、応援される人よりも強くなければいけない。より努力した人間だけに他人を励ます資格がある」。映画『フレフレ少女』の言葉を励みにし、4年間やり切ることができました。辛いことの方が多かったけれど、すべてが私を成長させてくれた宝物です。頑固な私を許してくれた同期や後輩たちには本当に感謝しています。

体育会本部に所属し、他の部活と関わることも多い中で、ボート部を内と外から見っていました。そこで感じたのは、同志社ボート部に所属している以上、自分の部に誇りを持っているということでした。人それぞれ誇りに思うことは違いますが、全員が同志社ボート部に誇りを持っている組織であってほしいと思います。ただ、誇りの持てる組織にするのは自分です。部員一人ひとりが部のことを考えて、勝つために、応援されるチームになるために、行動することが強い組織を築くことに繋がるのだと思います。

4年はあっという間です。やり残したことがあっても後輩に託すしかありません。4年間やり切って引退してください。頼もしい後輩ばかりなので、応援するのがとっても楽しみです。4年間お世話になった方々、本当にありがとうございました。



宮田 将平

Shouhei Miyata

理工学部電気工学科
私立清風高等学校出身

この部に入部を決めた時、この4年間はしんどいことが多いだろうなと思っていた。実際思ったようにいかなかったし、辛かったことがほとんどだった。

正直、大学に入るまで結構甘やかされて生きてきたと思う。だから入部した当初はボート部の環境は未知の世界過ぎた。しかも入部当初から同期は個性が強かったし、生活のほとんどがボート部だしで、全然ついていけなかった。それから成績も出せず、漕手を降りるのを決めた時なんて、今さらだけ部活をやめようと本気で思っていた。

でも引退して合宿所を出てみると、毎日が平凡で何かしていないと心配になっていて、辛かったことが多かったがその分ボート部に捧げた4年間でどれだけ自分に充実と生きていく力を与えてくれたのかというのを改めて痛感した。いろんな人に支えてもらい、助けてもらった。とても感謝しています。これからはOBとして部にこの恩を返していけたらと思います。

最後に後輩へ、僕は綺麗ごとを書くのは好きじゃないし立派な言葉も思いつかないが、ひとつだけ、"ねたみとは魂の腐敗である。"というのを伝えたい。

人のことを批判ばかりしたり揚げ足を取って馬鹿にして、人として腐らないでいて欲しい。



かめい みき こ
亀井 美紀子【広報】

①社会学部メディア学科
②私立同志社女子高等学校
④後悔が残らないよう
日々を大切に、自分に
できることをやり遂げ
ます。



やまもと る い
山本 瑠依【統制・栄養】

①グローバル地域文化学科
グローバル地域文化学科
②私立西南学院高等学校
④「日本一のマネージャー」
になれるようすべてに
において尽力します。



ふた がみ
二神 こころ【副務】

①商学部商学科
②兵庫県立大学
附属高等学校
④どんな形であれ、勝利に
貢献できたと
自負できるような
サポートをします。



おお した みず き
大下 瑞季【学連】

①文学部国文学科
②石川県立小松高等学校
④自分の良さを活かし、
勝利に貢献できるよう
努めます。



たけうち ゆ き
竹内 祐希【艇友会】

①社会学部教育文化学科
②京都文教高等学校
④一つひとつのラスト
イベントが過去3年間の
中での一番の出来に
なるように取り組みます。



その み さ と
園 三紗都【広報】

①社会学部教育文化学科
②滋賀県立守山高等学校
④部のために最大限の
サポートをします。



あん どう ゆうさく
安藤 優作

①経済学部経済学科
②福岡県立城南高等学校
③180cm/72kg
④伝説のスカラーになる。



あし だ いちろう
芦田 一郎

①法学部法律学科
②私立同志社高等学校
③163cm/66kg
④勝ち気でいきます



新 3 回生



し みず りょう
清水 諒

①経済学部経済学科
②山口県立宇部高等学校
③178cm/68kg
④今年よりも良い結果を
出せるよう、
日々頑張ります。



い こま ひろし
生駒 宏武

①グローバル
コミュニケーション学部
グローバル
コミュニケーション学科
②私立三田学園高等学校
③175cm/70kg
④楽しむ



やまもと こう の すけ
山本 幸之介

①商学部商学科
②私立三田学園高等学校
③171cm/69kg
④コンディション管理、
情報の共有で勝利を
目指す。



なか むら かい
中村 魁

①法学部法律学科
②兵庫県立洲本高等学校
③177cm/74kg
④楽しみまくる！



なか ざわ まさ ひろ
中澤 正浩

①経済学部経済学科
②私立甲南高等学校
③176cm/77kg
④渋くなる。



じんぐう けん すけ
神宮 健輔

①経済学部経済学科
②私立広尾学園高等学校
③188cm/80kg
④ケガをしない。
背中語り、結果で示す。



おお じ とも や
大慈 智哉

①商学部商学科
②兵庫県立兵庫高等学校
③174cm/74kg
④芽吹かせる年。
花は咲くという兆しを
見せたい



おお だに えいしゅう
大谷 鋭周

①文学部国文学科
②私立
函館ラ・サール高等学校
③173cm/73kg
④対策を練り続ける



おお だに だい
大谷 大

①経済学部経済学科
②大阪府立高槻北高等学校
③183cm/73kg
④結果を残します

2018年度

現役部員紹介

①学部・学科 ②出身高校 ③身長・体重 ④今シーズンに向けてひと言



新 4 回生



ふじ わら しゅん や
藤原 駿也【副将】

①経済学部経済学科
②私立開明高等学校
③176cm/82kg
④覚悟は決めました。
妥協を許さず結果を
追いかけていきます。



いし だ だい ち
石田 大知【主将】

①商学部商学科
②私立明星高等学校
③177cm/76kg
④勝つために厳しく険しい
道を、常に最大かつ
最高の一歩で進む。



おお だに ふみのり
大谷 文則

①スポーツ健康科学部
スポーツ健康科学科
②私立芝学園高等学校
③168cm/68kg
④ラストシーズン悔いが
残らないように
頑張ります。



かさ げ わたる
籠重 航【主務】

①法学部法律学科
②私立同志社国際高等学校
③強い同志社大学
ボート部の礎となります。



く ぼ つよし
久保 剛【会計】

①法学部法律学科
②私立同志社香里高等学校
③179cm/80kg
④報恩謝徳



はら だ のぶ ひろ
原田 遥大

①理工学部
エネルギー機械工学科
②私立清教学園高等学校
③166cm/75kg
④同志社大学ボート部を
最強の団体にしたいです



おか もと あき ひさ
岡本 晃壽

①法学部法律学科
②私立同志社高等学校
③160cm/63kg
④ラストシーズン、最後に
笑えるよう頑張ります。



さくら ま たつ や
櫻間 達也

①法学部法律学科
②私立京都産業大学
附属高等学校
③189cm/87kg
④エイトで
日本一になります。



すえ つぐ まな ぶ
末次 真夏

①政策学部政策学科
②私立東福岡高等学校
③169cm/68kg
④ラストイヤー全力で
漕ぎます。



たか の あつし
高野 敦

①文学部国文学科
②兵庫県立神戸甲北高校
③166cm/70kg
④結果を残す



さわ しゅん た
澤 駿太

①経済学部経済学科
②滋賀県立東大津高等学校
③177cm/80kg
④粉骨砕身



さい とう のぶ こ
齋藤 暢子

①商学部商学科
②秋田県立本荘高等学校
③168cm
④1日1日の積み重ねを、
結果に繋がられるよう
精進します。



にし だ きな の
西田 樹乃【女子主将】

①社会学部メディア学科
②東京都立戸山高等学校
③167cm
④すべてを手に入れます。



き むら とし き
木村 俊貴

①経済学部経済学科
②私立智辯学園高等学校
③177cm/74kg
④完全燃焼

たかもと しょうへい
高本 正之甫

- ①法学部法律学科
- ②私立高槻高等学校
- ③177cm/72kg
- ④改革の核となる強い漕手になる。

くわ た ひろ き
桑田 大輝

- ①グローバル地域文化学部アメリカコース
- ②兵庫県立姫路東高等学校
- ③183cm/77kg
- ④勝てるように練習する。

か ぎ こうへい
加木 康平

- ①社会学部教育文化学科
- ②大阪府立夕陽丘高等学校
- ③172cm/70kg
- ④上に登っていけるような成長の年にします

と つか しゅんと
戸塚 駿斗

- ①商学部商学科
- ②群馬県立共愛学園高等学校
- ③181cm/77kg
- ④自分に厳しく練習に励む

たに りょうと
谷 峻登

- ①法学部政治学科
- ②福岡県立東筑高等学校
- ③183cm/70kg
- ④他の速いクルーと勝負できるようにする

たけうち つとむ
竹内 努

- ①スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科
- ②私立松本第一高等学校
- ③186cm/77kg
- ④昨シーズンの悔しさを胸に結果に拘ります。

はしもと けんたろう
橋本 健太郎

- ①法学部政治学科
- ②奈良県立奈良高等学校
- ③176cm/71kg
- ④根気強く

なか の こうじ
中野 昂士

- ①商学部商学科
- ②山口県立宇部高等学校
- ③180cm/83kg
- ④勝ちきることができるように努力します。

とみしま だい ち
富嶋 太地

- ①法学部法律学科
- ②奈良県立生駒高等学校
- ③165cm/68kg
- ④結果を追い求める

まつもと まさ き
松本 昌樹

- ①法学部政治学科
- ②埼玉県立熊谷高等学校
- ③172cm/71kg
- ④一歩ずつ着実に

ふくしま だい ち
福島 大智

- ①経済学部経済学科
- ②滋賀県立石山高等学校
- ③176cm/69kg
- ④毎モーションごとに先輩たちに食らいつく。

は せ べ まさ や
長谷部 正也

- ①法学部法律学科
- ②岐阜県立長良高等学校
- ③172cm/80kg
- ④日々の練習を大事にして、結果を残します

ゆ ら りょうへい
涌羅 陽介

- ①商学部商学科
- ②兵庫県立星陵高等学校
- ③177cm/72kg
- ④すべての面でレベルアップし、チームの戦力になる。

もとみや しゅういち
本宮 秀梧

- ①法学部法律学科
- ②私立多摩大学附属聖ヶ丘高等学校
- ③173cm/70kg
- ④向き合う

み き たかひろ
三木 貴博

- ①経済学部経済学科
- ②私立同志社国際高等学校
- ③183cm/73kg
- ④自分に謙虚に、そして上達し強くなります。

しろうず あきひる
白水 亮兆【COX】

- ①商学部商学科
- ②福岡県立筑紫丘高等学校
- ③178cm/58kg
- ④頑張ります

やまもと りょうた
山本 涼太

- ①商学部商学科
- ②私立同志社高等学校
- ③176cm/70kg
- ④どんなに辛くて苦しくても、勝つまで闘い続けます。

やま だ わせい
山田 倭正

- ①法学部法律学科
- ②私立白陵高校
- ③185cm/82kg
- ④先輩に食らいついて技術を高め、1つでも上の船に乗って勝ちます！

ふじ わら たかし
藤原 嵩

- ①法学部法律学科
- ②私立同志社高等学校
- ③178cm/76kg
- ④勝つ漕手になります。

ふじ おか てんしょう
藤岡 天翔

- ①商学部商学科
- ②私立修道高等学校
- ③164cm/69kg
- ④昨シーズンまでのすべての経験を糧に成長し結果を残してみせる。

た がわ りょうた
田川 凌大

- ①政策学部政策学科
- ②神戸市立六甲アイランド高等学校
- ③190cm/81kg
- ④いつかできるなら今年する。今年で燃え尽きるくらい頑張りたい。

むらかみ しん や
村上 真哉【COX】

- ①商学部商学科
- ②大阪府立四条畷高等学校
- ④部の勝利に必要なものを揃える。

ふじもと りょう
藤本 亮【COX】

- ①政策学部政策学科
- ②大阪府立桜塚高等学校
- ③163cm/55kg
- ④未知に挑み続ける飛躍の1年にしていきます。

やまぐち ひろ と
山口 弘人【COX】

- ①商学部商学科
- ②福井県立藤島高等学校
- ③163cm/55kg
- ④同志社が今年、真の強豪になるその瞬間まで導きます。

ふくい あや か
福井 彩夏【COX】

- ①スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科
- ②私立同志社女子高等学校
- ③158cm
- ④自分に厳しく、勝利に貪欲に。

たけもと さくら
竹本 咲良

- ①文学部文化史学科
- ②福岡県立城南高等学校
- ③147cm
- ④勝ちにこだわる。

う さ み ゆう き
宇佐見 侑紀

- ①文学部国文学科
- ②大阪府立富田林高等学校
- ③158cm
- ④勝ちに見合った努力を。

ひばな な な こ
日花 奈々子【広報】

- ①社会学部メディア学科
- ②京都市立西京高等学校
- ④部の勝利のために尽力します

ふくしま さほ
福島 沙帆【統制】

- ①社会学部教育文化学科
- ②京都市立西京高等学校
- ④日本一を獲るために不足のないサポートをする

や ぎ まり な
八木 鞠菜【広報】

- ①政策学部政策学科
- ②私立賢明女子学院高等学校
- ④すべての行動に責任を持ち、漕手と共に勝利を目指します。

もうり のり こ
毛利 宣子【学連】

- ①政策学部政策学科
- ②私立筑紫女学園高等学校
- ④同志社ボート部の勝利のためにサポーターとして力を尽くします。

みつ だ まみ こ
光田 真美子【艇友会】

- ①政策学部政策学科
- ②愛知県立津島高等学校
- ④未来の自分に後悔をさせない選択をする

おお た さほ
大田 彩葉【栄養】

- ①経済学部経済学科
- ②私立同志社女子高等学校
- ④チームの勝利のためできることを考え、自分にしかできないことを見つけたいです。

い もと ゆういち
井元 祐一

- ①経済学部経済学科
- ②香川県立観音寺第一高等学校
- ③165cm/65kg
- ④がんばります

いま い しょうき
今井 昇熙

- ①経済学部経済学科
- ②私立名古屋高等学校
- ③173cm/65kg
- ④結果にこだわります

新2回生

コーチングスタッフ紹介



監督

武田 知也

の仕事はヒト・モノ・カネの調達・改善に努めることであり、それは監督として当たり前なのですが、それを愚直に実行することの大切さを実感しています。苦難が伴う仕事ではありますが、コーチ陣、現役部員が一生懸命現場に向き合ってくれるので、私は自身の仕事に正面から向き合えることができています。

最近、ボート界における弊部の存在意義を自身に問うています。それはやはり「同志社の多彩な人材から、知・徳・体のそろった人材を供給できること」です。これを追求すれば、同志社がエイトを中心とした強豪チームとなることも夢ではないと信じて日々ボート界・現場に向き合っています。

艇友会員、保護者の皆さま、また、広告主の皆さまには弊部の活動並びに、毎度『力漕』発刊のご協力をいただき誠に有難うございます。

就任後6年が経過し、7年目となりました。当初はコーチ不在、指導は監督のみ、と脆弱な指導体制でしたが、選手たちはその苦境を常に前向きに乗り越えてくれ、艇友会をはじめ多数の方々からは物心両面の支援を賜りました。ここまで関わって

てくださった方には感謝の言葉しかありません。現在は乗艇コーチ3名、ストレングスコーチ2名、リギング担当、外部プロコーチらがおり、私は「監督の仕事」に専念できるようになっています。

ボートは、大嫌いで大好きなスポーツなんだと、最近つくづく思っています。

障がい者ボートの指導を始めた2013年当初から、母校の艇庫を間借りして活動してきました。社会人で現役を引退してから約20年は、全くボートの現場から離れて過ごしていた私にとって、改めてボートと言うスポーツの魅力と、勝利を目指し懸命に努力を重ねている選手やスタッフ達を間近に見て、自分の夢も重ね合わせたいと思っています。

私の指導の原点は、こうしないと俺みたいになぞ！という逆説の観点です。(笑)

記録にも記憶に残らない競技生活の中で、葛藤し続けた経験があるからこそ、多くの不正解と正しい努力の方向性を示唆できると考えています。

競技とは、一握りの勝者と多くの敗者を選別するものですが、目指す過程にこそ本当の価値があると考えています。シーズンに向けては部内選考があり、レースでは結果が問われますが、何をを目指すのか？なぜ目指すのか？目標と目的を常に更新し、学生達が質の高いボート部生活を送れるように、微力ながら全力でサポートしていく所存です。

今後ともご支援ご指導よろしくお願い申し上げます。

OB・OG、そして保護者の皆様、いつも多大なご支援を賜り、誠にありがとうございます。今シーズンの一番のトピックといえば、やはり、櫻間君のインカレでの優勝でしょう。私にとってもコーチとして初めて経験する日本一という栄光であり、非常に嬉しい出来事でありました。

今回のこの結果は、普段、選手たちに提供しているトレーニングプログラムが正しい方向性であったと証明してくれるものであり、今後のトレーニング指導への活力と自信を与えてくれました。また、櫻間君が人一倍の努力家であり、いつも出されたプログラムを丁寧に実施してく

れている存在であったことも効果を確信した要因でありました。

今後は、彼の取り組む姿勢がひとつの目安となり、他の部員へ大きな影響力をもたらしてくれるであろうと思います。その波及効果を利用しながら、選手の体力面の強化を加速させていく予定です。

今回の結果が偶然ではなく、必然だと周りに言わしめるためには、来シーズンも日本一を取ることが必須であると考えています。今回の経験を糧に、強い同志社を復活させるために引き続き、精進していく所存です。今後も変わらぬご支援の程、よろしくお願い申し上げます。



コーチ

原 一雅

同志社艇友会員のみなさま、保護者のみなさまには日頃よりボート部に対しましてご協力・ご支援いただきありがとうございます。

このたび、コーチとしてお手伝いさせていただきます。レースに出るための有酸素系や筋力トレーニング、エルゴを使っての練習はただただしんどく、疲れも溜まる一方で52歳になってから1人で練習するモチベーションの維持には苦労しました。ただ、いざボートに乗って漕ぎ出すと、ブレードが合

い、艇が伸び、すべる独特な感覚、水の音、徐々に上がるスピードを感じながら、あらためてボートの楽しさ・爽快感を得ることができました。

また、心地よい疲労感を伴いながら参加するレース後の慰労会も、歳は違えどまさに同じ釜の飯を食った仲間として先輩後輩とのつながりの深さを再認識できる良い機会となりました。このような現役時代の感覚を伝えていくことも、後進の育成に繋がると考えています。

今シーズンの目標「120人体制、インカレ全クルーの最終日進出、インカレでのエイト優勝」達成のため、コーチとして、OBとして、時には父親としての視点で現役の応援をしてまいりますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

今年度同志社大学ボート部の乗艇コーチを担当します、平木漠と申します。ご縁あって同志社大学ボート部に関わらせて頂くこと、光栄に思っております。

私が大学を卒業した2015年以降、大学ボート界の構図は変化しています。関東の強豪私大は力のバランスが変わりながらも一定水準の力を維持する一方、関西地区中心に多くの地方大学が複数の大会／種目で成果を上げています。同志社大学も着実に力を付けているチームのひとつですが、関東と地方の有力校が各種目で激しくメダルを争う中、上位進出を果たすこと、また高い成果を出し

続けることは容易ではなくなっています。

こういった環境にあって、大学から競技を始める部員が多い当部にとって、トレーニングの量と質、効率性の確保は不可欠です。私は他チームでの競技経験をもとに、選手の乗艇技術指導はもちろん、当部でこれらの要素を高める方法を考案、導入して参ります。

半年近く学生と接し、その向上心の高さには驚かされる日々です。学生が飛躍のきっかけを作れるよう、密にコミュニケーションを取ることを意識し、指導陣一体となって艇速の向上に寄与すべく精進して参ります。

引き続き皆様のご支援のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

1968年、WildRoverはメキシコオリンピックに参戦した。神様のいたずらか、50年目の節目を飾れと言わんばかりに、選手たちの成長は著しい。その代表が櫻間君だ。昨年のインカレで関東の私立強豪選手たちに立ち向かっていく様は、新島襄が困難を乗り越えて外国に渡る戦いそのものだったと、私は思った。そして、それはひとりの戦いではなかった。陸に戻ってきた彼をone purposeを斉唱して称えたように、チーム一丸となってこそ日本一は実現する。ものすごく気持ちのいい経験だった。

だから2018年はもっと大勢の人たちともっとたくさん斉唱したい。より賢く、より強く、より忍耐強く。我々の闘志をもう一度世界に向けたる勢いで練習をしよう。選手の皆さん、伝統と実績のあるクラブにいることを誇りに思っ



落合 萌々花

- ①法学部法律学科
- ②私立同志社国際高等学校
- ③160cm
- ④悔しいじゃなくて楽しいと思えるシーズンにしたいです。



和田 匠平【トレーナー】

- ①法学部法律学科
- ②滋賀県立石山高等学校
- ③173cm/68kg
- ④完璧なフォームを確立する



徳永 拓人【COX】

- ①理工学部機能分子・生命科学科
- ②大阪府立四条畷高等学校
- ③165cm/55kg
- ④頑張ります



永富 千尋

- ①経済学部経済学科
- ②福岡県立東筑高等学校
- ③172cm
- ④辛い冬練を乗り越えて、いいシーズンスタートを切ります！



谷 美緒

- ①商学部商学科
- ②私立同志社高等学校
- ③159cm
- ④最後に笑えるように日々努力していきます。



武安 玲佳

- ①政策学部政策学科
- ②私立同志社国際高等学校
- ③156cm
- ④初心を忘れず頑張ります



山本 百華

- ①文学部英文学科
- ②山口県立下関西高等学校
- ③167cm
- ④冬でしっかり備えて来シーズン1勝でも多くしたいです。



山根 彩那

- ①経済学部経済学科
- ②私立京都女子高等学校
- ③157cm
- ④ないものねだりよりもあるもの磨き。結果を求めて日々精進します。



平林 若奈

- ①文学部英文学科
- ②私立同志社国際高等学校
- ③153cm
- ④全力で頑張ります。



木村 朱里【学連】

- ①商学部商学科
- ②私立同志社国際高等学校
- ④部の一員として責任と自信を持ち、マネージャーとして最大限に部に貢献できるよう頑張ります。



大垣 誠奈【栄養】

- ①政策学部政策学科
- ②西宮市立西宮東高等学校
- ④部のために自分で考えて行動することを忘れず、マネージャーとして成長できるように頑張ります。



糸魚川 みどり【トレーナー】

- ①経済学部経済学科
- ②札幌市立旭丘高等学校
- ④漕手のために、部のために、自分のやるべきことをやります。



佐藤 榛茄【広報】

- ①経済学部経済学科
- ②いわき秀英高等学校
- ④常に自分にできることは何かを考えて行動していきたいです。



小西 礼子【艇友会】

- ①法学部法律学科
- ②私立愛知淑徳高等学校
- ④部の勝利のために一生懸命サポートします。



久保田 理々子【広報】

- ①神学部神学科
- ②埼玉県立熊谷女子高等学校
- ④漕手の力になれるよう、精一杯頑張ります。



庄司 ゆみ【統制】

- ①政策学部政策学科
- ②私立須磨学園高等学校
- ④少しでも漕手の方々の力になれるように頑張ります。



同志社大学ボート部 理念

ボート競技を通じ
知・徳・体の涵養に努め、
良心に満ち溢れ
自治自立の精神を備えた
有為な人材を輩出することにより
社会に貢献する。

平成29年度 ボート部にご支援いただいた皆様 いつもご支援ありがとうございます。来年度もよろしくお願い申し上げます。

昭和 29 年卒 村井 利康	昭和 50 年卒 宮地 信行 鎌田 博 植野 誠之 上田 達彦	昭和 59 年卒 米村 康弘 河南 潤治 谷口 幸一 前谷 浩 作間 秀樹 松本 収平	平成 4 年卒 宮崎 寿春 谷 昌二郎 小林 重之 小田切 拓 加藤 康 功力 英俊 勝本 肇 吉田 拓生 米山 尚吾	平成 13 年卒 井口 順太 銭谷 剛志 高橋 毅 菊山 峰子 高橋 弥紀	平成 23 年卒 西本 孝志 池田 ひかる 今井 文美 奥 知里 西岡 成美
昭和 33 年 八神弘雄				平成 14 年卒 山田 篤	平成 24 年卒 植田 義之 畑田 聖 関本 駿 中村 康治郎 濱島 昌輝 上田 奈保子 千原 奈美 川島 希紗
昭和 35 年 大西治 榎本昌浩	昭和 51 年卒 湊 良三 武尾 豊 湊 裕子	昭和 60 年卒 伊藤 寛 石鍋 寿久 矢野 英明 小森 康充	平成 5 年卒 内田 琢也 原田 昌彦 井上 賢二	平成 15 年卒 赤尾 宣彦 木口 学	
昭和 38 年卒 中村 泰博 橋本 尚吾	昭和 52 年卒 荻野 義明 中野 貴夫 矢島 正恒 河畑 宣伸 馬杉 淳一	昭和 61 年卒 川崎 五代嗣 高下 康治 磯田 秀樹 谷川 真司 中村 俊裕 安田 智雄 安田 克裕 田中 義力	平成 6 年卒 押領司 哲也 木内 良典 喜多 栄太 中澤 郁男 中西 孝夫 早坂 真一 堀内 昭宏 松城 敬 余谷 有紀枝	平成 16 年卒 今東 俊雄 中村 洋太郎 堀内 康武 松尾 智之 村井 亮	平成 25 年卒 南出 貴裕 鈴木 直道 中田 幸祐 谷田 浩毅 長畑 真実 湯山 愛 高橋 美帆
昭和 39 年卒 中原 克己 加野 豊司 伊藤 菁悟		昭和 62 年卒 奥谷 勇人 高橋 良明 樋口 健一郎 屋久 浩典 藤田 哲哉 志賀 理		平成 17 年卒 岡田 大介 行實 幹人 岡田 綾子	
昭和 40 年卒 石本 君夫 池田 宜郎 廣田 恒夫 内保 忠勝	昭和 53 年卒 桶田 英俊		昭和 63 年卒 阿江 克彦 斎藤 繁明 原 一雅 平松 靖之 星沢 慎二	平成 18 年卒 高橋 亜紀 野上 慶子	平成 26 年卒 池本 雅基 万木 恭介 檜垣 聡志 谷井 沙衣
昭和 41 年卒 大宮 久	昭和 54 年卒 高橋 正樹 森 信秀 村田 市郎 小笠原 司 藤井 浩 木村 俊雄	昭和 65 年卒 小関 隆一 益田 秀仁 井頭 感 水野 正成 玄道 秀則 桜井 隆夫	平成 7 年卒 佐伯 明 伊藤 崇 小吹 悟	平成 19 年卒 角谷 明彦 中村 周作 古池 美岐 角谷 美樹 古矢 礼子	平成 27 年卒 日比野 聖司 君和田 剛大 丸尾 拓也 佐藤 拓朗 太田 圭佑 川村 佳苗 三島 奈々 新垣 彩実
昭和 42 年 松本 洋 飯田 隆史	昭和 55 年卒 小関 隆一 益田 秀仁 井頭 感 水野 正成 玄道 秀則 桜井 隆夫	昭和 56 年卒 池谷 晋 荒山 元秀 細見 博 中辻 努 中住 慎一 石田 雄治 内海 久俊 野瀬 正治	平成 8 年卒 岡本 和彦 木原 聡 小林 賢史 武田 知也 白田 圭助 山田 寛幸 渡辺 将常 薄 真理 高橋 彩 吉野 光治	平成 20 年卒 勘田 泰邦 津村 一平 片岡 勇人 可児 怜史	平成 28 年卒 今富 圭一 中小路 悟 平井 貴大 入村 悠 大隅 清貴 葉山 顕祥 政井 克哉 松村 啓介 山田 高輝 川野 由季 勝島 愛
昭和 43 年 高橋 潔	昭和 57 年卒 目片 雅喜 河毛 樹 森 保二 林 圭介 林田 尚之 久保 智之 山本 健也 松山 厚志 永野 巖	平成元年卒 関谷 晴彦 石田 政隆 井上 周一 大島 昭子	平成 9 年卒 奥 哲史 関根 佐和子 渡辺 綾子	平成 21 年卒 川口 正嗣 瀬川 敏克 有木 良輔 河合 弘貴 川淵 智貴 金野 裕輝 内藤 毅人 北野 万里香	
昭和 44 年卒 洲濱 祐一 浜崎 潔 山本 克美	昭和 46 年卒 大橋 行正 佐々木 讓 宮川 滋	平成 2 年卒 朝倉 伸二 石橋 雅信 坂本 竜一 北村 正樹 朝倉 優子 島田 恭典 配川 隆司 前田 崇	平成 10 年卒 有馬 誠生 石橋 欣也 岩田 勇人 岡前 秀彦 渋谷 一郎 高石 徹 高橋 功 内藤 竜一 中原 輝宣	平成 22 年卒 千原 第資 三谷 大輔 大沼 茂彬 佐藤 勇樹	
昭和 45 年卒 新井 喜範 村井 富雄 金澤 重光 清水 正俊 田中 重次郎 高橋 滋	昭和 47 年卒 横山 基嗣	平成 3 年卒 乾 健治 小原 隆史 重松 健一 榊原 雅也 佐藤 将人 杉山 伸 津嶋 泰 三上 和彦 岡田 太一郎 安達 祥子	平成 11 年卒 網嶋 雄一郎	平成 23 年卒 園田 真大 菊池 修一郎 今関 将太 打它 晃 木下 啓史 木下 伸也 森福 将之 福重 太郎 田中 克弥	平成 29 年卒 田井 哲朗 中来田 悠介 津田 邦泰 阪 悠樹 平田 耕一 中山 奈美
昭和 49 年卒 小松 研一 植西 信子 山形 彰人 楠戸 俊宣 花森 節夫		昭和 58 年卒 小森 進治 和田 学 武田 泰一 松田 弘一 田中 秀昭 高山 一也 明石 逸二 貝賀 俊之	平成 12 年卒 高橋 輝 若杉 圭		

※敬称略 ※艇友会費を納入いただいた方および寄付金をいただいた方を掲載しています。



〒520-2134 滋賀県大津市瀬田3丁目24-6 TEL:077-543-8823



喫茶・お食事

サイフォンで淹れる
コーヒーと、味わい深い
白金豚のお料理は
いかがですか？

7:00~20:00 木曜定休日

〒520-2132

大津市神領3丁目21-19 金子野和第1ビル1F

TEL/FAX (077)532-6935

喫茶 & 食事



屋町上立売ビル

薪窯キッチン ペロッタ



滋賀県大津市玉野浦 6-1
びわ湖湾艇場内

077-544-1099

11:00-15:00 (L.O.14:30)

17:30-22:00 (L.O.21:30)

定休:火曜日 駐車場あり

<http://perrotta-kitchen.com>
ネット予約可

焼肉のフルコース 世界一周 近江牛



REIMON

<http://www.reimon8929.com/>

営業時間：夜 17:00 ~ 23:00 (L.O.22:00)

TEL 077-537-3700

滋賀県大津市栗津町 8-1 (JR 石山駅前)

そば
一品料理



大津市瀬田1丁目 19-31

TEL:077-545-0011



TEL:077-537-1780

FAX:077-537-1791

<http://amisada.jp>

〒520-0851 大津市唐橋町23-1 [瀬田唐橋中の島南側]

カフェ・レストラン



湖岸道路唐橋下ル

TEL:077-537-3355



世界を健康に。

K.O.PROJECT.,Ltd

www.koproject.co.jp



京のちりめん 問屋

丹後ちりめんと、
京友禅の融合した伝統美

京阪シルクは和装小物・袋物用素材・和雑貨の
企画開発をしています。
近年は特にちりめんに注力した素材を提供して
います。
丹後ちりめんと京友禅の融合した伝統美をお楽しみ
ください。

〒600-8108

京都市下京区五条通西洞院東入る

TEL:075-351-2340

FAX:075-351-4352

www.keihansilk.com



YUZEN



MUJI



KINRAN



WACHO
SOZAI



COMPANY

ナジック・アイ・サポートは 同志社大学の学生を応援しています

ナジックグループは、「“学生が宝。期待以上のナジック”を目指してこれからも挑戦を続けます」をキーワードに様々な事業を推進しています。ナジック・アイ・サポートでは、学生と社会を繋ぐことを使命に、アルバイト紹介サイトの運営、有給インターンシップ「ワークプレイスメント」の推進を行っています。

学業や、クラブ練習の間に無理のないアルバイトを！

学生アルバイト情報ネットワーク「アイネス（aines）」

安全・安心

面白い・学べる

学業・クラブ両立

aines(アイネス)は学校(大学・短大・専門学校)別のアルバイト情報サイトです

同志社大学
Doshisha University

同志社大学専用ページ

aines 関西
学生アルバイト情報ネットワーク

同志社大学専用ページ



<https://www.aines.net/doshisha/>

3年生になったら就職サポート！

有給インターンシッププログラム「ワークプレイスメント」

興味のある仕事にどんどんチャレンジ

アルバイト + インターンシップ
||

ナジック・ワークプレイスメント



nasic 株式会社ナジック・アイ・サポート
学生情報センターグループ

株式会社 ナジック・アイ・サポート キャリア支援部
大阪市淀川区西中島5-4-20中央ビル2F 電話: 06-4806-0551
Mail: info-osk@nasic-is.co.jp

3年生向け有給インターン(全46件)
リアルな業界研究が出来るインターンシッププログラム

お給料をもらいながら社員のアシスタントとして勤務

★おすすめポイント

- ①時給がもらえる 時給平均1,000円
- ②会社の実態が分かる
- ③隠れた優良企業に出会える
- ④都合に合わせた勤務が可能

ナジック・ワークプレイスメント(就労体験型学生派遣)とは、アルバイトよりも実践的で、インターンシップとは違って報酬(お給料)を得ることが出来る、アルバイトとインターンシップのメリットを融合させた新しい就労体験の形です。

進学

初めての引越しは
「**単身パックS**」で。



マイホーム

家族の大切な引越しは
「**フルプラン**」で。



就職

荷物の増えた引越しは
「**単身パックL**」で。



人生

まるごと

まかせて

安心。

海外赴任

海外への引越しは
「**ハートライナー**」で。



結婚

近距離の引越しは
「**単身パック当日便**」で。



住み替え

家族のお得な引越しは
「**セルフプラン**」で。



引越し
は日通

フリーダイヤル ひっこし は にっつう
0120-154022

引越しは日通

検索

日本代表※選手団が 手にしたプロテイン。

プロテイン1回分を、
この1本で。
しかもそのまま飲める。



1回分わずか

約**4g**で

一般的なプロテインと
同様なカラダづくりが
期待できる

一般的な
プロテイン

「アミノバイタル
アミノプロテイン」



約15~20g
(スプーン2~3杯分)



スティック1本
約4g

たったの 約**17kcal**

一般的な
プロテイン

「アミノバイタル
アミノプロテイン」



おにぎり1.7個分*
(約300kcal)



おにぎり約0.1個分
(約17kcal)

* 1回分(約20g)を300mlの牛乳に溶かした場合 5訂食品成分表より

簡単に飲めるから
タイミングを逃さない



直接飲む



シェイク不要

**amino
VITAL** アミノバイタル

アミノバイタル アミノプロテイン



※「アミノバイタル」は、競泳日本代表の公式栄養補助食品です。

ドラッグストア、スポーツ店、通信販売等でお買い求めください。

※店舗によって一部取り扱いが無い商品もございます。

詳しくはWEBへ

アミノバイタル 検索